

市町村合併市民意識調査

報 告 書

平成14年6月
鹿 児 島 市

【 目 次 】

調査の概要	1
1 調査の目的.....	2
2 調査の実施方法.....	2
(1) 調査対象及び有効対象者数	
(2) 調査方法	
(3) 調査の実施時期	
(4) 調査票の回収結果	
3 回答者の特性.....	3
調査結果の概要	7
1 国や県が市町村合併を進めていることについて	8
2 本市が周辺の市町村と合併することについて	8
3 合併が「必要」と回答した理由	11
4 合併は「必要ない」と回答した理由	12
5 7町村のうち、合併すべきと考える町村とその理由	13
(1) 7町村のうち、合併すべきと考える町村	
(2) 本市と7町村との合併理由	
6 7町村以外で合併すべきと考える市町村とその理由	17
調査結果	19
問6 国や県が市町村合併を進めていることをご存じですか	20
問7 本市は周辺の市町村と合併する必要があると思いますか ...	22
問8 合併する必要があると回答した理由	24
問9 合併する必要はないと回答した理由	26
問10 7町村のうち、合併すべきと考える町村とその理由	28
問11 7町村以外で合併すべきと考える市町村とその理由	40
その他意見（抜粋）	44
調査資料（アンケート票）	45

調査の概要

1 調査の目的

合併問題に関する鹿児島市民の意向を把握・分析し、市町村合併の取り組みを検討するための基礎資料とする。

2 調査の実施方法

(1) 調査対象及び有効対象者数

18歳以上の市民 10,000人（4月8日現在の住民基本台帳から無作為抽出）

有効対象者数 9,931人

年齢階層別、性別対象人数

年齢階層別	男性(人)	女性(人)	合計(人)
18～19歳	166	167	333
20～29歳	838	949	1,787
30～39歳	773	836	1,609
40～49歳	826	919	1,745
50～59歳	812	934	1,746
60～69歳	597	733	1,330
70歳以上	549	901	1,450
合計	4,561	5,439	10,000

地域（支所）別人数

地域（支所）別	合計(人)
中央地域（本庁）	5,365
南部地域（谷山支所）	2,725
西部地域（伊敷支所）	1,042
北部地域（吉野支所）	845
東桜島地域（東桜島支所）	23
合計	10,000

(2) 調査方法

郵送法

(3) 調査の実施時期

平成14年4月15日～4月30日

(4) 調査票の回収結果

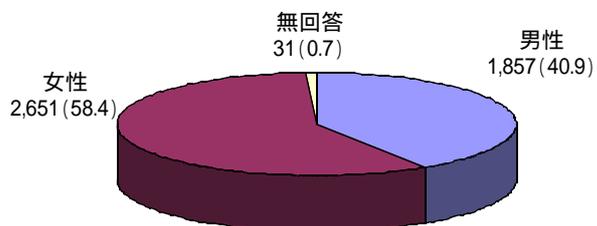
回収数 4,636 票 (回収率 46.7%)

無効 97 票

有効回答数 4,539 票 (有効回答率 45.7%)

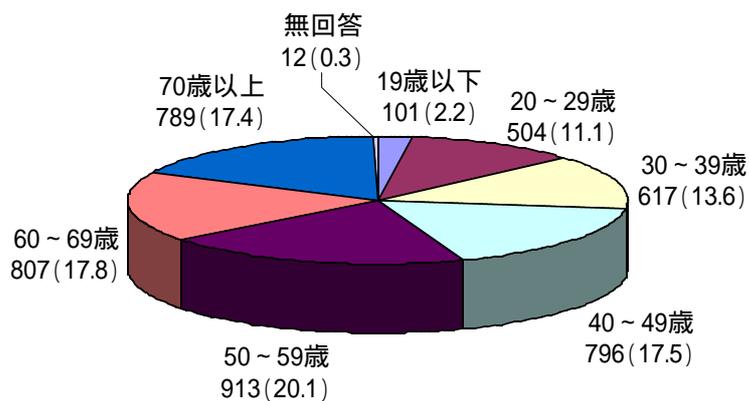
3 回答者の特性

【性別】



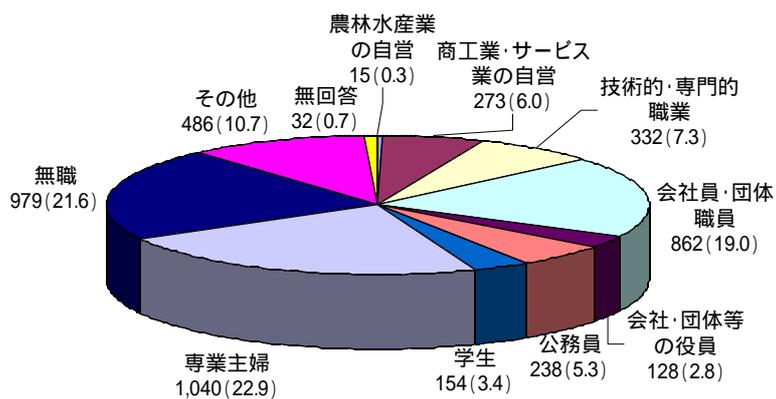
サンプル数	男性	女性	無回答
4,539	1,857	2,651	31
100%	40.9	58.4	0.7

【年齢別】



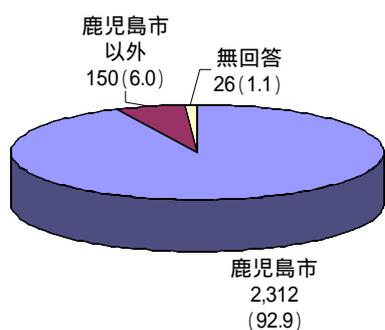
サンプル数	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無回答
4,539	101	504	617	796	913	807	789	12
100%	2.2	11.1	13.6	17.5	20.1	17.8	17.4	0.3

【 職業別 】



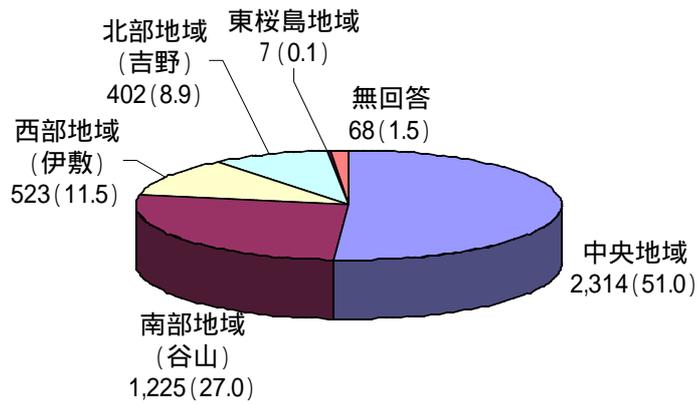
サンプル数	農林水産業の自営	商工業・サービスの自営	技術的・専門的職業	会社員・団体職員	会社・団体等の役員	公務員	学生	専業主婦	無職	その他	無回答
4,539	15	273	332	862	128	238	154	1,040	979	486	32
100%	0.3	6.0	7.3	19.0	2.8	5.3	3.4	22.9	21.6	10.7	0.7

【 職場・学校が所在する場所 】



サンプル数	鹿児島市	鹿児島市以外	無回答
2,488	2,312	150	26
100%	92.9	6.0	1.1

【 居住地域別 】



サンプル数	中央地域	南部地域 (谷山)	西部地域 (伊敷)	北部地域 (吉野)	東桜島地域	無回答
4,539 100%	2,314 51.0	1,225 27.0	523 11.5	402 8.9	7 0.1	68 1.5

調査結果の概要

1 国や県が市町村合併を進めていることについて

国や県が市町村合併を進めていることについての認知度はおよそ8割

「ある程度知っている」の回答を含めると77.9%の人が、国や県が市町村合併を進めていることを「知っている」と回答した。同様に「知らない」と回答したのは21.1%。

性別では、男性の方が認知度が高く86.4%が「知っている」のに対し、女性のおよそ4人に1人、26.7%は「知らない」と回答した。

また、年齢別では、60歳代を頂点に、年齢が高くなるとともに認知度が高くなっているが、19歳以下では43.6%が「知らない」と回答し、認知度が特に低くなっている。

職業別でも、いずれの職業でも7、8割の人が「知っている」のに対し、「学生」で「知らない」の回答が36.4%あり、ここでも若年層での認知度の低さが浮き彫りになっている。

2 本市が周辺の市町村と合併することについて

合併が必要	39.4%	
合併は必要ない	32.7%	
どちらともいえない	わからぬ	26.8%

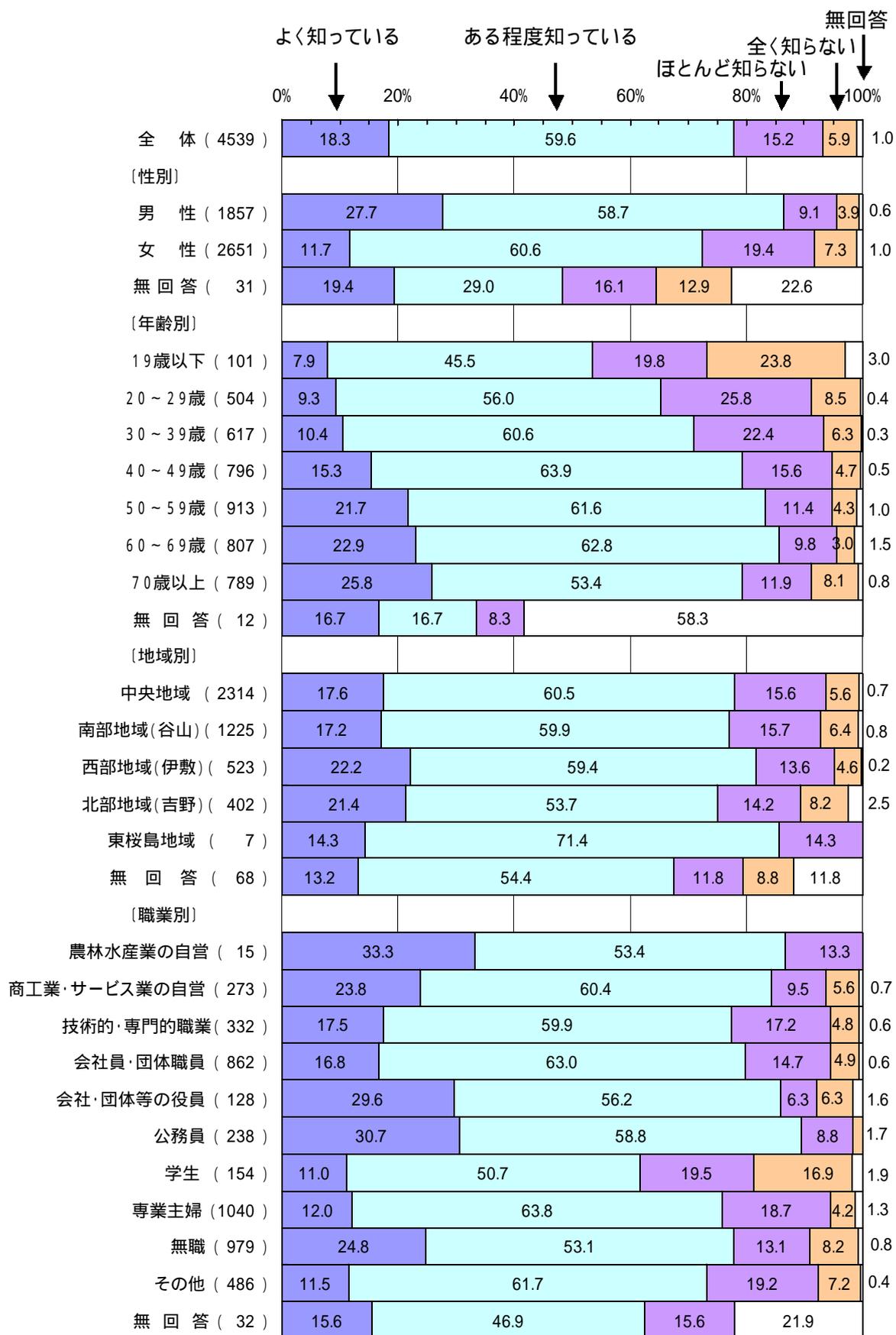
本市と周辺の市町村との合併の必要性については、「どちらかといえば合併する必要がある」も含めると39.4%の人が「合併が必要」と回答し、同様に「合併は必要ない」との回答は32.7%であった。また、「どちらともいえない」、「わからない」の回答も26.8%であった。

性別では、男性の半数近く（47.9%）が「合併が必要」と回答したのに対し、女性では、合併が「必要」と「必要ではない」、「どちらともいえない、わからない」がそれぞれ1/3ずつに分かれた。

年齢別では、50歳を境に「合併が必要」の回答が多くなり、19歳以下では「合併は必要ない」の回答が40.6%を占めて多い。

地域別では、南部地域（谷山）で「合併が必要」と「合併は必要ない」の回答が同率（36.3%）になっているほかは、「合併が必要」の回答が「合併は必要ない」を上回った。

職業別では、「合併が必要」の回答は、「商工業・サービス業の自営」や「会社・団体等の役員」などの事業者や企業経営者では5割以上、「農林水産業の自営」、「技術的・専門的職業」、「会社員・団体職員」、「無職」でも約4割以上が回答し、「合併は必要ない」を上回った。一方、「公務員」や「学生」、「専業主婦」、「その他」の職業では合併が「必要」と「必要ない」の回答が同じ程度の比率となっている。





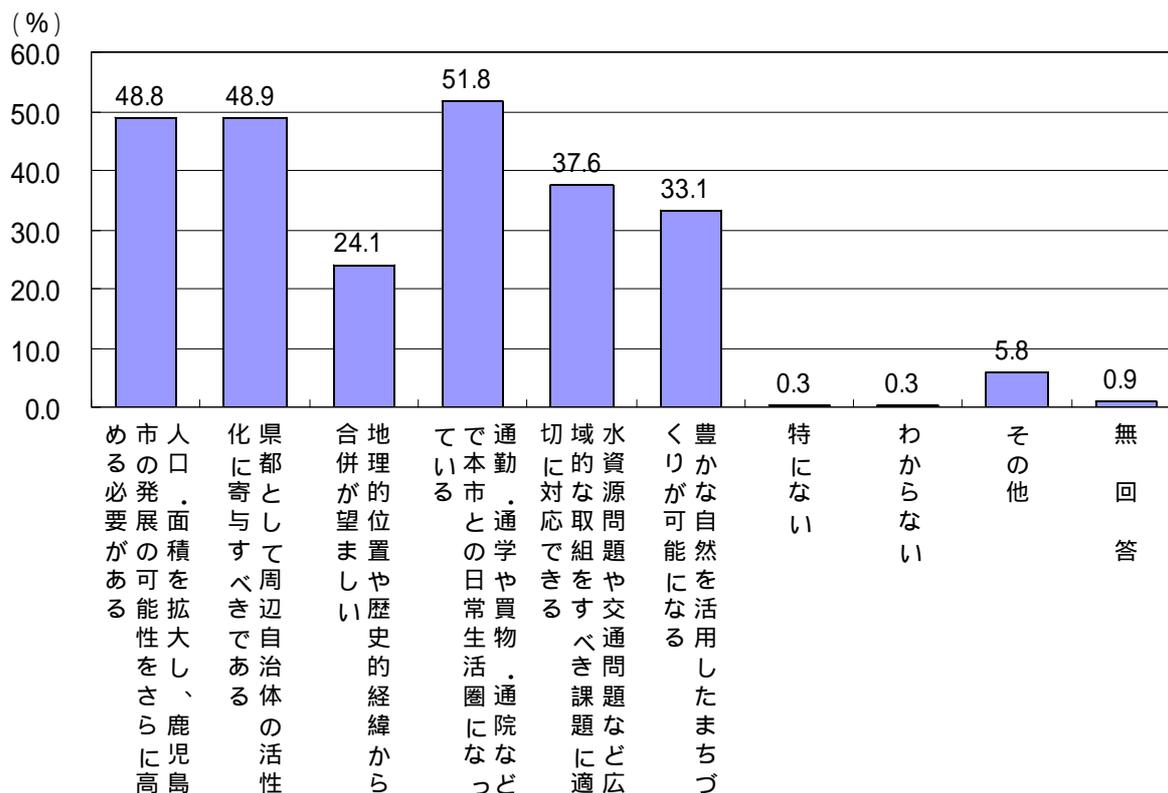
3 合併が「必要」と回答した理由（複数回答）

合併が必要であると考える3つの大きな理由
 「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(51.8%)
 「県都として周辺自治体の活性化に寄与すべきである」(48.9%)
 「人口・面積を拡大し、鹿児島市の発展の可能性をさらに高める必要がある」
 (48.8%)

合併が「必要」と回答した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」の51.8%を筆頭に、「県都として周辺自治体の活性化に寄与すべきである」(48.9%)と「人口・面積を拡大し、鹿児島市の発展の可能性をさらに高める必要がある」(48.8%)の3つをそれぞれ約半分の人あげた。

また、合併の必要性に関する回答別にその理由をみると、本市の発展や県都としての役割を重視し、期待している人は「合併する必要がある」と比較的明確に回答しているのに対して、現在同じ日常生活圏であることを重視し、生活圏と行政区域を一致させることや周辺自治体の活性化などの現状の改善を期待している人は「どちらかといえば合併する必要がある」と回答していると推察できる。

N = 1,790



4 合併は「必要ない」と回答した理由（複数回答）

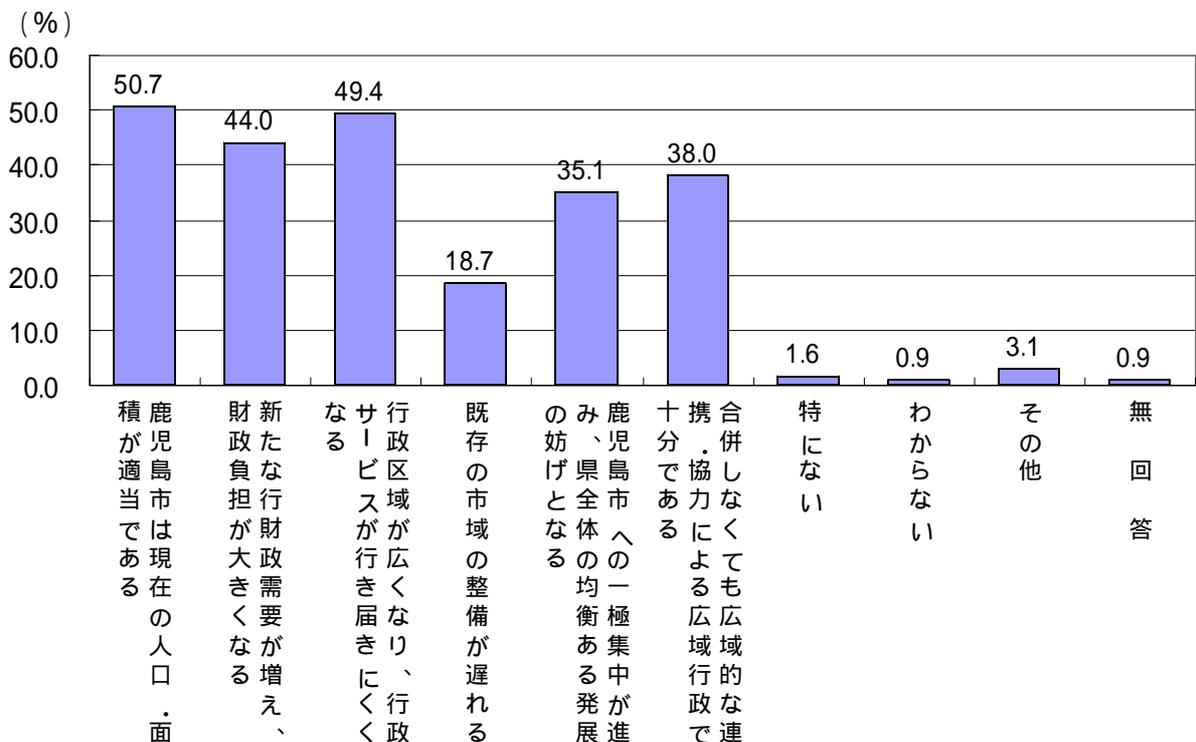
合併は必要ないと考える3つの大きな理由
 「鹿児島市は現在の人口・面積が適当である」(50.7%)
 「行政区域が広くなり、行政サービスが行き届きにくくなる」(49.4%)
 「新たな行財政需要が増え、財政負担が大きくなる」(44.0%)

「合併する必要はない」と回答した理由としては、「鹿児島市は現在の人口・面積が適当である」(50.7%)と「行政区域が広くなり、行政サービスが行き届きにくくなる」(49.4%)ことを約半数の人があげた。次いで「新たな行財政需要が増え、財政負担が大きくなる」(44.0%)ことへの危ぐや、「合併しなくても広域的な連携・協力による広域行政で十分である」(38.0%)、「鹿児島市への一極集中が進み、県全体の均衡ある発展の妨げとなる」(35.1%)などの回答が多かった。

職業別では、「商工業・サービス業の自営」や「技術的・専門的職業」、「会社・団体等の役員」などの事業者や企業経営者・従事者等は、「新たな行財政需要が増え、財政負担が大きくなる」ことへの危ぐが「合併する必要はない」と考える大きな理由になっている。

また、合併の必要性に関する回答別にその理由をみると、現在の行政区域が適当であると考えている人は「合併する必要はない」と比較的明確に回答しているのに対して、「行政区域が広くなり、行政サービスが行き届きにくくなる」や「新たな行財政需要が増え、財政負担が大きくなる」などの合併後に対する漠然とした不安や危ぐを感じている人は「どちらかといえば合併する必要はない」と回答していると推察できる。

N = 1, 4 8 1



(本市が周辺市町村と「合併する必要がある」または「どちらかといえば合併する必要がある」と回答した方へ)

5 7町村のうち、合併すべきと考える町村とその理由

(1) 7町村のうち、合併すべきと考える町村(複数回答)

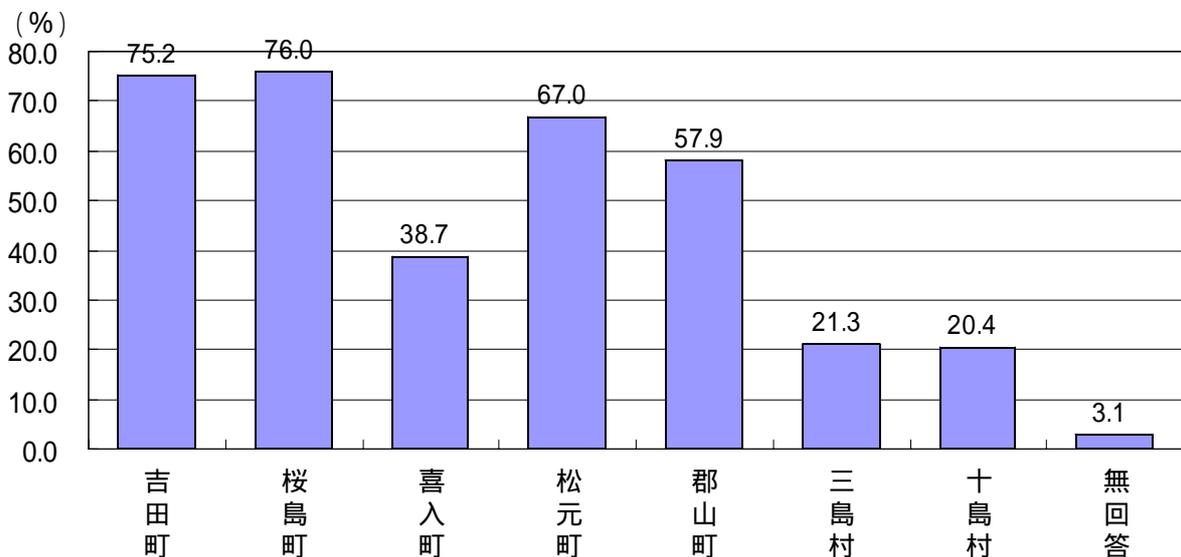
本市と合併すべきであるとする町村

「桜島町」(76.0%)、「吉田町」(75.2%)、「松元町」(67.0%)、「郡山町」(57.9%)、「喜入町」(38.7%)、「三島村」(21.3%)、「十島村」(20.4%)の順。

7町村のうち本市と合併すべきであるとする町村は、「桜島町」(76.0%)と「吉田町」(75.2%)が特に高い比率を占めており、次いで「松元町」(67.0%)、「郡山町」(57.9%)、「喜入町」(38.7%)、「三島村」(21.3%)、「十島村」(20.4%)の順となっている。

地域別でみると、回答者が居住する地域と7町村との位置関係によって合併すべきであるとする町村の回答率が異なり、南部地域(谷山)では「松元町」(72.5%)の回答が最も多く、「吉田町」(64.6%)の回答率は比較的低くなっている。また、西部地域(伊敷)では「郡山町」(73.4%)が「桜島町」(73.0%)と同じ程度の割合を占めて「松元町」(62.6%)より高く、さらに、北部地域(吉野)では「吉田町」が88.3%の高率となっている。

N = 1,790



(2) 本市と7町村との合併理由（複数回答）

『吉田町』

「吉田町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(69.5%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(40.8%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(27.5%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(24.2%)の順となっている。

『桜島町』

「桜島町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(59.6%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(46.8%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(34.6%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(21.1%)の順となっている。

『喜入町』

「喜入町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(62.5%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(35.4%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(31.5%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(27.0%)の順となっている。

『松元町』

「松元町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(71.8%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(32.4%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(30.5%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(25.6%)の順となっている。

『郡山町』

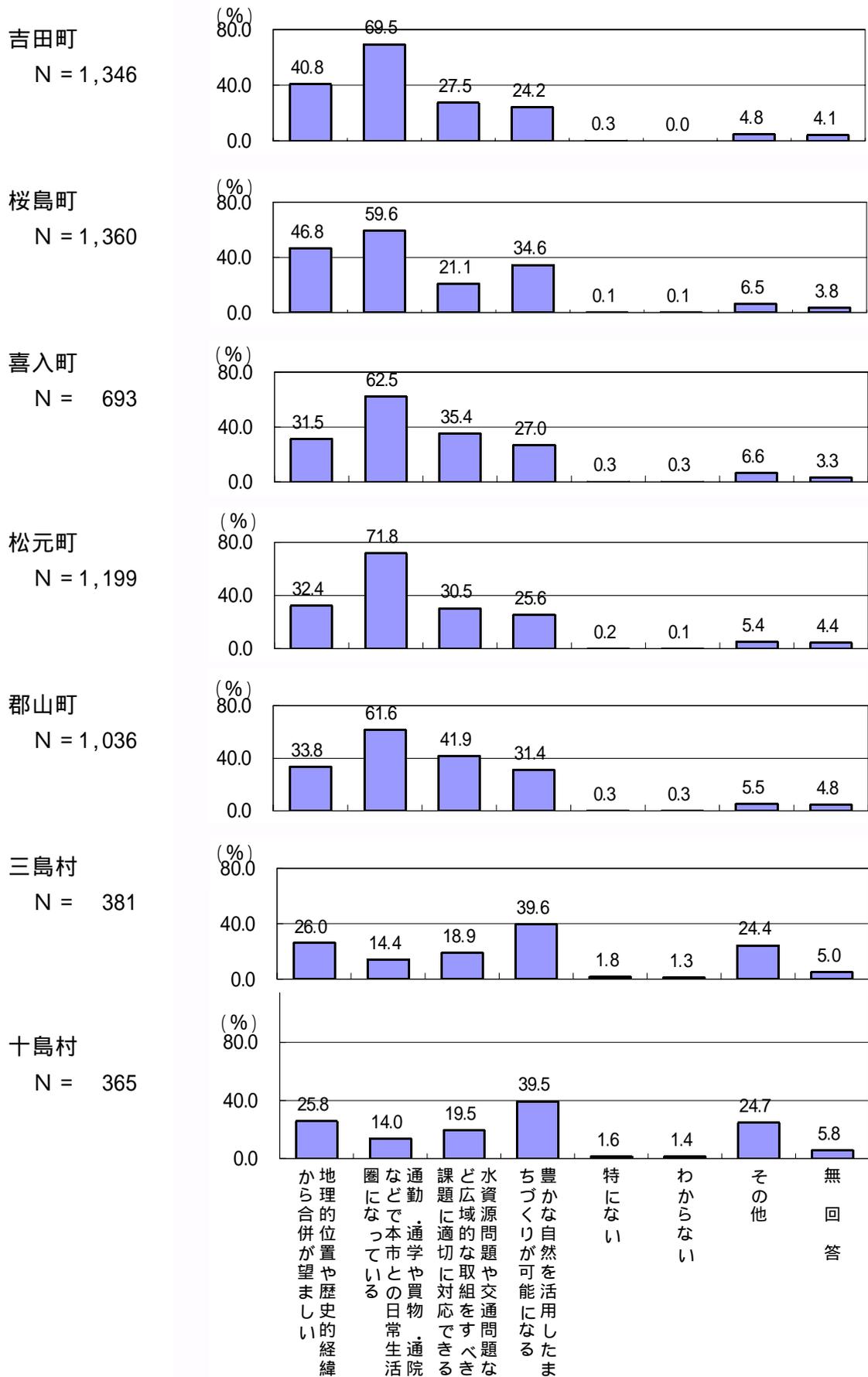
「郡山町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(61.6%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(41.9%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(33.8%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(31.4%)の順となっている。

『三島村』

「三島村」を選択した理由としては、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(39.6%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(26.0%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(18.9%)、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(14.4%)の順となっている。

『十島村』

「十島村」を選択した理由としては、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(39.5%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(25.8%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(19.5%)、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(14.0%)の順となっている。



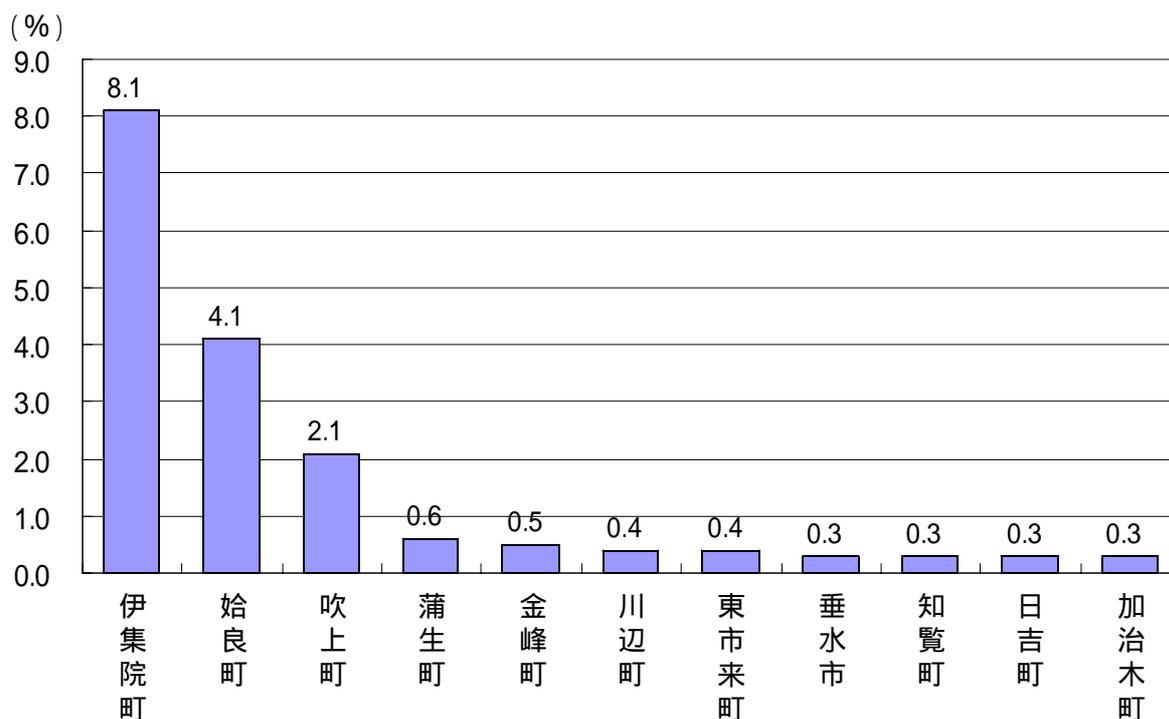
6 7町村以外で合併すべきと考える市町村とその理由

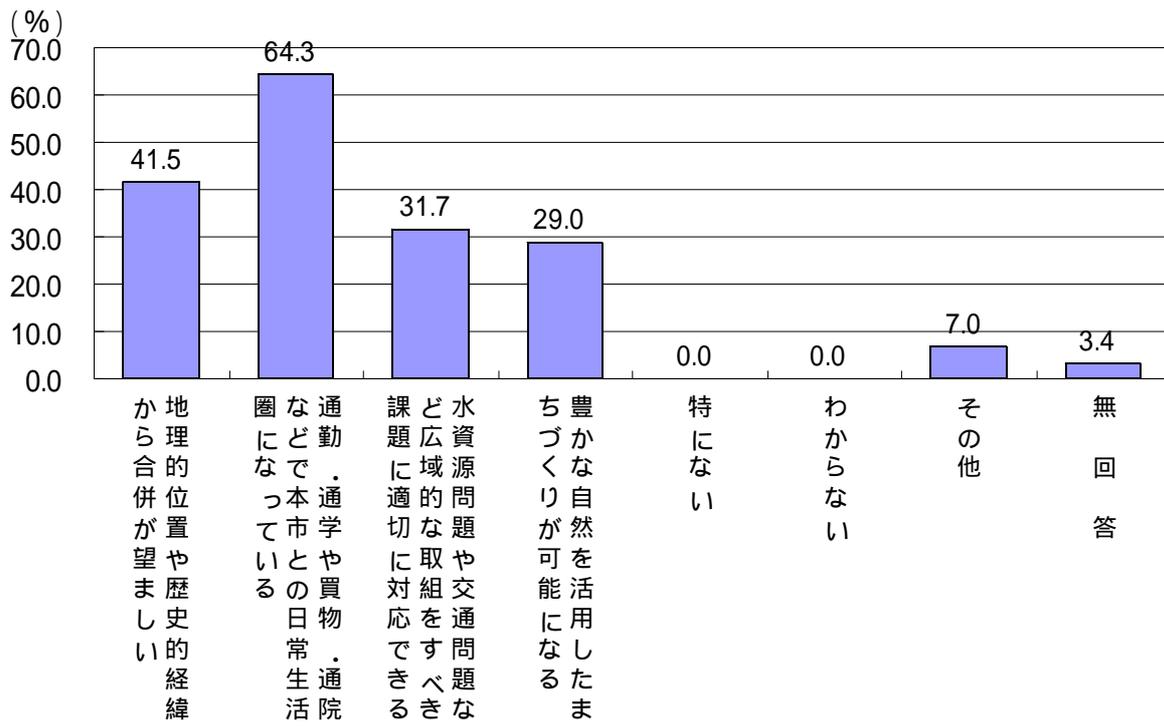
7町村以外で合併すべきと考える市町村（上位3市町村）
「伊集院町」（8.1%）、「始良町」（4.1%）、「吹上町」（2.1%）

7町村以外に合併すべきと考える市町村として、6市16町があがっており、中でも「伊集院町」と「始良町」、「吹上町」の3町の回答が比較的多くなっている。

また、これらの市町村を選択した理由については、全体では、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」というのが64.3%で最も多く、次いで「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」（41.5%）、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」（31.7%）、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」（29.0%）と続く。合併すべきと考える市町村としては、まず第一に、普段、同じ生活圏としての一体感を感じている市町村をあげ、次に、地理的、歴史的なつながりを重視していることが推察できる。

N = 1,790（上位11市町）





調查結果

問6 国や県が市町村合併を進めていることについてご存じですか。該当する番号に印をお付けください。

「ある程度」と「よく」を合わせると8割近い77.9%の人が、国や県が市町村合併を進めていることを「知っている」と回答した。

同様に「ほとんど」と「全く」を合わせて「知らない」と回答したのは21.1%、全体の約2割であった。

性別で見ると、男性では「よく知っている」の回答が27.7%あり、「ある程度」と「よく」を合わせた「知っている」の回答が86.4%を占めるのに対し、女性では「ほとんど」と「全く」を合わせた「知らない」の回答が男性の約2倍（26.7%）あり、女性の4人に1人は「知らない」と回答した。

年齢別では、60歳代の85.7%を頂点に、年齢が高くなるとともに「知っている」比率が高くなっている。19歳以下では1/4近い23.8%が「全く知らない」と回答し、「ほとんど」と「全く」を合わせると43.6%が「知らない」と回答した。

地域別では回答傾向に大きな違いはないが、西部地域（伊敷）で「知っている」の回答がわずかであるが多くなっている。

職業別では、学生で「知らない」の回答比率が合わせて36.4%と高くなっている以外は、「その他」の職業で73.2%、専業主婦で75.8%と、いずれの職業でも7、8割の人が「知っている」と回答している。

		サンプル数	よく知っている	ある程度知っている	ほとんど知らない	全く知らない	無回答
全 体		4539 100%	830 18.3	2704 59.6	690 15.2	270 5.9	45 1.0
性別	男 性	1857 100%	514 27.7	1090 58.7	170 9.1	72 3.9	11 0.6
	女 性	2651 100%	310 11.7	1605 60.6	515 19.4	194 7.3	27 1.0
	無 回 答	31 100%	6 19.4	9 29.0	5 16.1	4 12.9	7 22.6
年齢別	19歳以下	101 100%	8 7.9	46 45.5	20 19.8	24 23.8	3 3.0
	20～29歳	504 100%	47 9.3	282 56.0	130 25.8	43 8.5	2 0.4
	30～39歳	617 100%	64 10.4	374 60.6	138 22.4	39 6.3	2 0.3
	40～49歳	796 100%	122 15.3	509 63.9	124 15.6	37 4.7	4 0.5
	50～59歳	913 100%	198 21.7	563 61.6	104 11.4	39 4.3	9 1.0
	60～69歳	807 100%	185 22.9	507 62.8	79 9.8	24 3.0	12 1.5
	70歳以上	789 100%	204 25.8	421 53.4	94 11.9	64 8.1	6 0.8
	無 回 答	12 100%	2 16.7	2 16.7	1 8.3	0 0.0	7 58.3
地域別	中央地域	2314 100%	407 17.6	1401 60.5	361 15.6	129 5.6	16 0.7
	南部地域（谷山）	1225 100%	211 17.2	734 59.9	192 15.7	78 6.4	10 0.8
	西部地域（伊敷）	523 100%	116 22.2	311 59.4	71 13.6	24 4.6	1 0.2
	北部地域（吉野）	402 100%	86 21.4	216 53.7	57 14.2	33 8.2	10 2.5
	東桜島地域	7 100%	1 14.3	5 71.4	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	無 回 答	68 100%	9 13.2	37 54.4	8 11.8	6 8.8	8 11.8
職業別	農林水産業の自営	15 100%	5 33.3	8 53.4	2 13.3	0 0.0	0 0.0
	商工業・サービス業の自営	273 100%	65 23.8	165 60.4	26 9.5	15 5.6	2 0.7
	技術的・専門的職業	332 100%	58 17.5	199 59.9	57 17.2	16 4.8	2 0.6
	会社員・団体職員	862 100%	145 16.8	543 63.0	127 14.7	42 4.9	5 0.6
	会社・団体等の役員	128 100%	38 29.6	72 56.2	8 6.3	8 6.3	2 1.6
	公務員	238 100%	73 30.7	140 58.8	21 8.8	4 1.7	0 0.0
	学生	154 100%	17 11.0	78 50.7	30 19.5	26 16.9	3 1.9
	専業主婦	1040 100%	125 12.0	664 63.8	193 18.7	44 4.2	14 1.3
	無職	979 100%	243 24.8	520 53.1	128 13.1	80 8.2	8 0.8
	その他	486 100%	56 11.5	300 61.7	93 19.2	35 7.2	2 0.4
	無 回 答	32 100%	5 15.6	15 46.9	5 15.6	0 0.0	7 21.9

問7 本市は周辺の市町村と合併する必要があると思いますか。該当する番号に印をお付けください。

本市と周辺の市町村との合併の必要性については、「合併する必要がある」と「どちらかといえば合併する必要がある」を合わせると約4割、39.4%の人が「合併が必要」と回答し、「合併は必要ない」との回答は合わせると32.7%であった。

また、「どちらともいえない」、「わからない」と回答した人もおよそ1/4の26.8%であった。

性別でみると、男性では「合併が必要」の回答が合わせて47.9%と半分近くあるのに対し、女性では、合併が「必要」と「必要ではない」、「どちらともいえない、わからない」がそれぞれ1/3ずつに分かれた。

年齢別では、50歳以上の年齢層では「合併が必要」の回答が4割を超えて多いのに対し、50歳未満の年齢層では、「合併が必要」の回答は「合併は必要ない」とほぼ同じかやや少なくなっており、特に、19歳以下の年齢層では「合併は必要ない」の回答が40.6%を占めている。

地域別では、南部地域（谷山）で「合併が必要」と「合併は必要ない」の回答がいずれも36.3%と同率になっているほかは、いずれの地域でも「合併が必要」の回答が4割以上を占め、「合併は必要ない」の回答を上回った。

職業別では、「商工業・サービス業の自営」や「会社・団体等の役員」で「合併が必要」の回答が5割を超え、「農林水産業の自営」、「技術的・専門的職業」、「会社員・団体職員」、「無職」でも約4割以上の人が「合併が必要」と回答し、「合併は必要ない」を上回った。

一方、「公務員」や「学生」、「専業主婦」、「その他」の職業では「合併が必要」と「合併は必要ない」の回答が同じ程度の比率となっている。

		サンプル数	合併する必要がある	併どちらかといえれば合	併どちらかといえれば合	合併する必要はない	どちらともいえない	わからない	無回答
全 体		4539 100%	715 15.7	1075 23.7	802 17.7	679 15.0	792 17.4	425 9.4	51 1.1
性別	男 性	1857 100%	418 22.5	472 25.4	318 17.1	284 15.3	249 13.4	100 5.4	16 0.9
	女 性	2651 100%	295 11.1	600 22.6	480 18.1	391 14.8	536 20.2	322 12.2	27 1.0
	無 回 答	31 100%	2 6.4	3 9.7	4 12.9	4 12.9	7 22.6	3 9.7	8 25.8
年齢別	19歳以下	101 100%	7 6.9	19 18.8	18 17.8	23 22.8	17 16.8	14 13.9	3 3.0
	20～29歳	504 100%	50 9.9	130 25.8	92 18.3	76 15.1	101 20.0	52 10.3	3 0.6
	30～39歳	617 100%	61 9.9	139 22.5	120 19.5	102 16.5	126 20.4	66 10.7	3 0.5
	40～49歳	796 100%	119 15.0	180 22.6	172 21.6	136 17.1	138 17.3	47 5.9	4 0.5
	50～59歳	913 100%	159 17.4	209 22.9	184 20.1	143 15.7	149 16.3	60 6.6	9 1.0
	60～69歳	807 100%	165 20.4	204 25.3	120 14.9	112 13.9	132 16.3	67 8.3	7 0.9
	70歳以上	789 100%	153 19.4	193 24.5	95 12.0	86 10.9	129 16.3	118 15.0	15 1.9
	無 回 答	12 100%	1 8.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3	7 58.5
地域別	中央地域	2314 100%	368 15.9	560 24.2	411 17.8	320 13.8	399 17.2	226 9.8	30 1.3
	南部地域（谷山）	1225 100%	160 13.1	284 23.2	228 18.6	217 17.7	227 18.5	103 8.4	6 0.5
	西部地域（伊敷）	523 100%	108 20.7	114 21.8	88 16.8	75 14.3	90 17.2	44 8.4	4 0.8
	北部地域（吉野）	402 100%	72 17.9	107 26.6	66 16.4	55 13.7	56 13.9	43 10.7	3 0.8
	東桜島地域	7 100%	1 14.3	3 42.8	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	0 0.0
	無 回 答	68 100%	6 8.8	7 10.3	8 11.8	11 16.1	20 29.4	8 11.8	8 11.8
職業別	農林水産業の自営	15 100%	3 20.0	3 20.0	4 26.7	1 6.7	2 13.3	2 13.3	0 0.0
	商工業・サービス業の自営	273 100%	57 20.9	83 30.4	49 17.9	24 8.8	40 14.7	19 6.9	1 0.4
	技術的・専門的職業	332 100%	47 14.2	94 28.3	70 21.0	46 13.9	51 15.4	20 6.0	4 1.2
	会社員・団体職員	862 100%	147 17.1	196 22.7	164 19.0	128 14.9	162 18.8	59 6.8	6 0.7
	会社・団体等の役員	128 100%	36 28.1	29 22.7	24 18.8	17 13.2	16 12.5	5 3.9	1 0.8
	公務員	238 100%	45 18.9	59 24.8	56 23.5	49 20.6	18 7.6	11 4.6	0 0.0
	学生	154 100%	19 12.3	39 25.3	26 16.9	33 21.4	20 13.0	12 7.8	5 3.3
	専業主婦	1040 100%	120 11.5	228 21.9	187 18.0	174 16.7	219 21.1	101 9.7	11 1.1
	無職	979 100%	177 18.1	225 23.0	121 12.3	119 12.2	181 18.5	142 14.5	14 1.4
	その他	486 100%	59 12.1	112 23.0	99 20.4	84 17.3	80 16.5	51 10.5	1 0.2
	無 回 答	32 100%	5 15.6	7 21.9	2 6.2	4 12.5	3 9.4	3 9.4	8 25.0

(問7で1又は2と答えた方へ)

問8 合併する必要があると回答された理由について、該当する番号に 印をお付けください。(いくつでも結構です)

合併が「必要」と回答した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」の51.8%を筆頭に、「県都として周辺自治体の活性化に寄与すべきである」(48.9%)と「人口・面積を拡大し、鹿児島市の発展の可能性をさらに高める必要がある」(48.8%)の3つをそれぞれ約半分の人があげた。

性別、年齢別、地域別、職業別でも回答傾向に大きな違いはないが、この3項目以外の理由では、年齢別の「19歳以下」と「40歳代」、職業別の「会社・団体等の役員」と「その他」の職業では「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」ことも3項目と同等の比較的高い比率を占めている。

「その他」の理由(抜粋)

現在、鹿児島市は若者が流出する魅力のない町である。もっと大きくなって国内外の一流企業を誘致すべきである。

子を持つ親として医療面や何か起こったときの救助面で合併したほうが助かる命もあるのではと思う。

保健医療などを平等に充実し、ゴミ処理リサイクルなどを積極的に進めていける。

廃棄物等の問題を解決するためには広域的に取り組むべきである。

市町村の合併によって事務の合理化と人件費の減少を図り、財政の健全化を図る。

人口を拡大し、福岡市と変わらないくらいにしてほしい。

	サンプル数	さらに高めの必要がある	人口・面積を拡大し、鹿	活性化に寄与すべきである	地理的位置や歴史的経緯	圏など本市や買物・生活	通勤・通学や買物・生活	課題に適切な対応をすべき	水資源問題や交通問題な	ち豊かな自然を活用したま	特にな	わからない	その他	無回答
全体	1790	874 48.8	875 48.9	431 24.1	927 51.8	673 37.6	592 33.1	5 0.3	6 0.3	103 5.8	16 0.9			
性別	男性	890	451 50.7	429 48.2	224 25.2	447 50.2	351 39.4	280 31.5	1 0.1	1 0.1	68 7.6	7 0.8		
	女性	895	422 47.2	443 49.5	205 22.9	478 53.4	322 36.0	309 34.5	4 0.4	5 0.6	35 3.9	9 1.0		
	無回答	5	1 20.0	3 60.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
年齢別	19歳以下	26	11 42.3	10 38.5	1 3.8	12 46.2	10 38.5	9 34.6	0 0.0	0 0.0	5 19.2	0 0.0		
	20～29歳	180	89 49.4	84 46.7	30 16.7	86 47.8	47 26.1	35 19.4	0 0.0	0 0.0	15 8.3	2 1.1		
	30～39歳	200	87 43.5	93 46.5	28 14.0	106 53.0	62 31.0	53 26.5	1 0.5	1 0.5	20 10.0	3 1.5		
	40～49歳	299	122 40.8	148 49.5	51 17.1	161 53.8	120 40.1	90 30.1	0 0.0	0 0.0	22 7.4	2 0.7		
	50～59歳	368	187 50.8	165 44.8	84 22.8	194 52.7	145 39.4	112 30.4	1 0.3	1 0.3	25 6.8	2 0.5		
	60～69歳	369	195 52.8	175 47.4	101 27.4	184 49.9	158 42.8	152 41.2	1 0.3	1 0.3	7 1.9	4 1.1		
	70歳以上	346	182 52.6	200 57.8	136 39.3	183 52.9	131 37.9	141 40.8	2 0.6	3 0.9	9 2.6	3 0.9		
	無回答	2	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
地域別	中央地域	928	457 49.2	476 51.3	236 25.4	494 53.2	362 39.0	306 33.0	3 0.3	4 0.4	54 5.8	6 0.6		
	南部地域（谷山）	444	211 47.5	204 45.9	90 20.3	228 51.4	163 36.7	156 35.1	0 0.0	0 0.0	27 6.1	3 0.7		
	西部地域（伊敷）	222	109 49.1	108 48.6	46 20.7	105 47.3	87 39.2	64 28.8	0 0.0	1 0.5	13 5.9	4 1.8		
	北部地域（吉野）	179	86 48.0	83 46.4	50 27.9	91 50.8	60 33.5	61 34.1	2 1.1	1 0.6	8 4.5	3 1.7		
	東桜島地域	4	3 75.0	2 50.0	4 100.0	3 75.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	無回答	13	8 61.5	2 15.4	5 38.5	6 46.2	1 7.7	3 23.1	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0		
職業別	農林水産業の自営	6	2 33.3	4 66.7	1 16.7	2 33.3	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	商工業・サービス業の自営	140	70 50.0	65 46.4	27 19.3	61 43.6	55 39.3	52 37.1	0 0.0	1 0.7	12 8.6	3 2.1		
	技術的・専門的職業	141	72 51.1	75 53.2	33 23.4	79 56.0	59 41.8	41 29.1	0 0.0	0 0.0	9 6.4	0 0.0		
	会社員・団体職員	343	158 46.1	142 41.4	52 15.2	168 49.0	118 34.4	93 27.1	0 0.0	1 0.3	26 7.6	5 1.5		
	会社・団体等の役員	65	41 63.1	39 60.0	16 24.6	31 47.7	33 50.8	24 36.9	0 0.0	0 0.0	6 9.2	0 0.0		
	公務員	104	42 40.4	59 56.7	20 19.2	61 58.7	36 34.6	30 28.8	0 0.0	0 0.0	8 7.7	0 0.0		
	学生	58	23 39.7	28 48.3	9 15.5	23 39.7	19 32.8	13 22.4	0 0.0	0 0.0	8 13.8	0 0.0		
	専業主婦	348	164 47.1	183 52.6	87 25.0	184 52.9	131 37.6	130 37.4	2 0.6	2 0.6	12 3.4	2 0.6		
	無職	402	209 52.0	205 51.0	144 35.8	216 53.7	148 36.8	146 36.3	2 0.5	1 0.2	12 3.0	4 1.0		
	その他	171	88 51.5	71 41.5	39 22.8	96 56.1	71 41.5	56 32.7	1 0.6	1 0.6	9 5.3	2 1.2		
	無回答	12	5 41.7	4 33.3	3 25.0	6 50.0	3 25.0	5 41.7	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0		
必要	合併する必要がある	715	451 63.1	377 52.7	173 24.2	332 46.4	290 40.6	235 32.9	235 32.9	0 0.0	1 0.1	62 8.7		
	どちらかといえば合併する必要がある	1075	423 39.3	498 46.3	258 24.0	595 55.3	383 35.6	357 33.2	357 33.2	5 0.5	5 0.5	41 3.8		

(問7で3又は4と答えた方へ)

問9 合併する必要はないと回答された理由について、該当する番号に 印をお付けください。(いくつでも結構です)

「合併する必要はない」と回答した理由としては、「鹿児島市は現在の人口・面積が適当である」(50.7%)と「行政区域が広くなり、行政サービスが行き届きにくくなる」(49.4%)ことを約半数の人があげた。次いで「新たな行財政需要が増え、財政負担が大きくなる」(44.0%)ことへの危ぐや、「合併しなくても広域的な連携・協力による広域行政で十分である」(38.0%)、「鹿児島市への一極集中が進み、県全体の均衡ある発展の妨げとなる」(35.1%)などの回答が多かった。

性別、年齢別での回答傾向に大きな違いはないが、年齢別の50歳未満の年齢層では、「鹿児島市への一極集中が進み、県全体の均衡ある発展の妨げとなる」ことへの危ぐや「合併しなくても広域的な連携・協力による広域行政で十分である」なども主要な理由との回答差が小さい。

地域別でも回答傾向に大きな違いはないが、北部地域(吉野)では「鹿児島市は現在の人口・面積が適当である」との理由よりも「新たな行財政需要が増え、財政負担が大きくなる」と「行政区域が広くなり、行政サービスが行き届きにくくなる」ことへの危ぐや不安の方がやや大きくなっている。

職業別では、「商工業・サービス業の自営」や「技術的・専門的職業」、「会社・団体等の役員」などの職業では、「新たな行財政需要が増え、財政負担が大きくなる」ことへの危ぐが特に大きな理由になっている。

「その他」の理由(抜粋)

それぞれの市町村の歴史を尊重すべきである。

各町村の独自の運営や特色があって、その地区、町の良さを生かし、地方の雰囲気があってほしい。鹿児島市は都市部分でよいと思う。

鹿児島市と合併した他の町・村の存在が小さくなると考える。町・村では今まで以上に細かいところまで目が届かなくなるのではと考える。

7町村の住民の意思が反映されにくくなると思う。

水資源の不足につながる恐れがある。

他に優先すべき政策的問題が山積みなのに合併がどうこういう場合ではない。

	サンプル数	鹿嶋市は現在である	鹿嶋市は現在である	鹿嶋市は現在である	鹿嶋市は現在である	鹿嶋市は現在である	鹿嶋市は現在である						
全体	1481	751 50.7	652 44.0	732 49.4	277 18.7	520 35.1	563 38.0	23 1.6	13 0.9	46 3.1	14 0.9		
性別	男性	602 49.5	298 47.8	300 49.8	133 22.1	219 36.4	226 37.5	6 1.0	2 0.3	22 3.7	6 1.0		
	女性	871 51.7	450 41.6	430 49.4	142 16.3	301 34.6	332 38.1	16 1.8	10 1.1	24 2.8	8 0.9		
	無回答	8 37.5	3 25.0	2 25.0	2 25.0	2 0.0	0 62.5	5 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	
年齢別	19歳以下	41 46.3	19 29.3	12 31.7	13 24.4	10 31.7	13 26.8	11 9.8	4 2.4	1 9.8	4 0.0	0 0.0	
	20～29歳	168 44.0	74 35.1	59 44.0	74 14.3	24 35.1	59 34.5	58 1.8	3 1.2	2 1.8	3 1.2	2 1.2	
	30～39歳	222 47.7	106 43.2	96 50.5	112 19.4	43 42.3	94 28.8	64 28.8	3 1.4	1 0.5	8 3.6	1 0.5	
	40～49歳	308 46.1	142 45.5	140 52.3	161 20.5	63 35.4	109 39.0	120 39.0	4 1.3	3 1.0	10 3.2	3 1.0	
	50～59歳	327 50.8	166 47.1	154 50.2	164 15.3	50 33.9	111 45.9	150 45.9	1 0.3	3 0.9	9 2.8	3 0.9	
	60～69歳	232 59.1	137 42.2	98 46.6	108 17.7	41 32.3	75 39.7	92 39.7	5 2.2	1 0.4	5 2.2	4 1.7	
	70歳以上	181 58.6	106 50.8	92 54.1	98 24.9	45 32.0	58 37.0	67 37.0	3 1.7	2 1.1	7 3.9	1 0.6	
	無回答	2 50.0	1 50.0	1 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
地域別	中央地域	731 52.4	383 44.2	323 50.9	372 16.1	118 36.9	270 38.0	278 1.2	9 0.8	6 2.5	18 0.8	6 0.8	
	南部地域(谷山)	445 49.4	220 38.7	172 46.1	205 20.9	93 34.8	155 36.4	162 36.4	10 2.2	5 1.1	21 4.7	2 0.4	
	西部地域(伊敷)	163 49.1	80 48.5	79 47.9	78 22.7	37 31.9	52 40.5	66 40.5	4 2.5	1 0.6	3 1.8	5 3.1	
	北部地域(吉野)	121 47.9	58 52.9	64 53.7	65 17.4	21 30.6	37 39.7	48 39.7	0 0.0	1 0.8	4 3.3	1 0.8	
	東桜島地域	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	19 42.1	8 63.2	12 52.6	10 36.8	7 31.6	6 31.6	7 36.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
職業別	農林水産業の自営	5 60.0	3 20.0	1 60.0	3 20.0	1 40.0	2 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	商工業・サービス業の自営	73 47.9	35 54.8	40 35.6	26 16.4	12 26.0	19 42.5	31 42.5	0 0.0	1 1.4	1 1.4	1 1.4	
	技術的・専門的職業	116 45.7	53 48.3	56 51.7	60 17.2	20 32.8	38 37.1	43 37.1	1 0.9	2 1.7	3 2.6	0 0.0	
	会社員・団体職員	292 46.6	136 46.9	137 53.4	156 24.3	71 36.6	107 33.9	99 33.9	3 1.0	2 0.7	7 2.4	3 1.0	
	会社・団体等の役員	41 48.8	20 58.5	24 43.9	18 22.0	9 31.7	13 48.8	20 48.8	0 0.0	0 0.0	2 4.9	1 2.4	
	公務員	105 51.4	54 46.7	49 55.2	58 16.2	17 48.6	51 38.1	40 38.1	1 1.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0	
	学生	59 44.1	26 25.4	15 40.7	24 16.9	10 37.3	22 28.8	17 28.8	3 5.1	1 1.7	4 6.8	1 1.7	
	専業主婦	361 56.8	205 42.4	153 49.3	178 17.7	64 31.6	114 41.0	148 41.0	6 1.7	2 0.6	8 2.2	2 0.6	
	無職	240 50.8	122 43.8	105 51.3	123 22.5	54 35.4	85 39.6	95 39.6	7 2.9	4 1.7	12 5.0	3 1.3	
	その他	183 51.4	94 38.3	70 46.4	85 10.4	19 37.7	69 37.2	68 37.2	1 0.5	0 0.0	9 4.9	1 0.5	
	無回答	6 50.0	3 33.3	2 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	
不必要	どちらかといえば合併する必要はない	802 44.9	360 46.9	376 52.1	418 19.5	156 36.2	290 39.4	316 39.4	10 1.2	8 1.0	27 3.4	7 0.9	
	合併する必要はない	679 57.6	391 40.6	276 46.2	314 17.8	121 33.9	230 36.4	247 36.4	13 1.9	5 0.7	19 2.8	7 1.0	

(問7で1又は2と答えた方へ)

問10 ア 下記の7町村のうち、本市と合併すべきであるとする町村に 印をお付けください。(いくつでも結構です)

7町村のうち、本市と合併すべきであるとする町村は、「桜島町」(76.0%)と「吉田町」(75.2%)が特に高い比率を占めており、次いで「松元町」(67.0%)、「郡山町」(57.9%)、「喜入町」(38.7%)、「三島村」(21.3%)、「十島村」(20.4%)の順となっている。

性別、年齢別での回答傾向に大きな違いはないが、性別で、女性は男性に比べて「吉田町」及び「桜島町」とその他の町村との回答率の差が大きく、相対的に7町村の中での「吉田町」と「桜島町」の占める割合が大きくなっている。

地域別でみると、居住する地域と7町村との位置関係によって、合併すべきであるとする町村の回答率が異なり、南部地域(谷山)では「松元町」(72.5%)の回答率が最も高く、「吉田町」(64.6%)の回答率は比較的低くなっている。また、西部地域(伊敷)では「郡山町」(73.4%)が「桜島町」(73.0%)と同じ程度の割合を占めており、「松元町」(62.6%)の回答率より高く、さらに、北部地域(吉野)では「吉田町」が88.3%の高率となっている。

職業別でも回答傾向に大きな違いはないが、「公務員」では「三島村」と「十島村」の回答率が他の職業に比べて最も高く、「喜入町」を上回っている点が異なる。

		サ ン プ ル 数	吉 田 町	桜 島 町	喜 入 町	松 元 町	郡 山 町	三 島 村	十 島 村	無 回 答
全 体		1790	1346 75.2	1360 76.0	693 38.7	1199 67.0	1036 57.9	381 21.3	365 20.4	55 3.1
性別	男 性	890	696 78.2	699 78.5	372 41.8	632 71.0	555 62.4	212 23.8	205 23.0	22 2.5
	女 性	895	647 72.3	657 73.4	319 35.6	564 63.0	478 53.4	166 18.5	157 17.5	33 3.7
	無 回 答	5	3 60.0	4 80.0	2 40.0	3 60.0	3 60.0	3 60.0	3 60.0	0 0.0
年齢別	19歳以下	26	19 73.1	16 61.5	9 34.6	13 50.0	13 50.0	5 19.2	5 19.2	1 3.8
	20～29歳	180	111 61.7	118 65.6	70 38.9	99 55.0	88 48.9	28 15.6	29 16.1	10 5.6
	30～39歳	200	148 74.0	136 68.0	65 32.5	132 66.0	100 50.0	35 17.5	34 17.0	3 1.5
	40～49歳	299	225 75.3	220 73.6	116 38.8	206 68.9	162 54.2	74 24.7	68 22.7	4 1.3
	50～59歳	368	280 76.1	278 75.5	127 34.5	261 70.9	219 59.5	78 21.2	71 19.3	10 2.7
	60～69歳	369	294 79.7	306 82.9	150 40.7	249 67.5	231 62.6	70 19.0	70 19.0	9 2.4
	70歳以上	346	268 77.5	285 82.4	155 44.8	238 68.8	222 64.2	91 26.3	88 25.4	17 4.9
	無 回 答	2	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
地域別	中央地域	928	715 77.0	740 79.7	355 38.3	647 69.7	576 62.1	220 23.7	211 22.7	25 2.7
	南部地域（谷山）	444	287 64.6	321 72.3	212 47.7	322 72.5	203 45.7	80 18.0	75 16.9	9 2.0
	西部地域（伊敷）	222	177 79.7	162 73.0	63 28.4	139 62.6	163 73.4	42 18.9	43 19.4	10 4.5
	北部地域（吉野）	179	158 88.3	126 70.4	56 31.3	82 45.8	86 48.0	37 20.7	34 19.0	8 4.5
	東桜島地域	4	3 75.0	4 100.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無 回 答	13	6 46.2	7 53.8	6 46.2	7 53.8	6 46.2	2 15.4	2 15.4	3 23.1
職業別	農林水産業の自営	6	6 100.0	5 83.3	2 33.3	4 66.7	4 66.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0
	商工業・サービス業の自営	140	99 70.7	105 75.0	57 40.7	101 72.1	81 57.9	31 22.1	28 20.0	4 2.9
	技術的・専門的職業	141	92 65.2	104 73.8	54 38.3	98 69.5	74 52.5	23 16.3	19 13.5	4 2.8
	会社員・団体職員	343	264 77.0	244 71.1	132 38.5	239 69.7	204 59.5	59 17.2	57 16.6	6 1.7
	会社・団体等の役員	65	58 89.2	58 89.2	26 40.0	47 72.3	40 61.5	19 29.2	19 29.2	2 3.1
	公務員	104	83 79.8	84 80.8	30 28.8	67 64.4	65 62.5	39 37.5	37 35.6	2 1.9
	学生	58	39 67.2	36 62.1	25 43.1	31 53.4	31 53.4	17 29.3	17 29.3	2 3.4
	専業主婦	348	253 72.7	265 76.1	114 32.8	222 63.8	181 52.0	57 16.4	58 16.7	14 4.0
	無職	402	321 79.9	330 82.1	183 45.5	267 66.4	256 63.7	103 25.6	98 24.4	14 3.5
	その他	171	121 70.8	119 69.6	64 37.4	113 66.1	92 53.8	29 17.0	28 16.4	7 4.1
	無 回 答	12	10 83.3	10 83.3	6 50.0	10 83.3	8 66.7	3 25.0	3 25.0	0 0.0

イ また、 印を付けられた町村と合併すべきであると考えている理由について、該当する番号を記入してください。(いくつでも結構です)

『吉田町』

「吉田町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」が69.5%で最も多く、次いで「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(40.8%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(27.5%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(24.2%)と続く。

吉田町については、本市と同じ生活圏であると考えていることが、合併が必要だと考える大きな理由になっている。

性別、年齢別で回答傾向に大きな違いはない。

地域別では、9割近い人が「吉田町」を選択した北部地域(吉野)では、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」ことも半数近くを占める大きな理由となっており、他の地域に比べて高い比率を占めている。

『桜島町』

「桜島町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」が59.6%で最も多く、次いで「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(46.8%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(34.6%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(21.1%)と続く。

桜島町については、本市と同じ生活圏であることに加え、地理的位置関係や歴史的な経緯も本市との合併が必要だと考える比較的大きな理由になっている。

性別、年齢別、地域別で回答傾向に大きな違いはないが、年齢別の20歳代と70歳以上の年齢層では、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」という理由が「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」ことと同じ程度の高い回答率となっている。

『喜入町』

「喜入町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」が62.5%で最も多く、次いで「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(35.4%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(31.5%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(27.0%)と続く。

喜入町については、2位以下の回答率が比較的低く、差も小さいことが特徴であり、相対的に1位の回答が大きな割合を占めていると言える。

性別、年齢別、地域別で回答傾向に大きな違いはないが、年齢別の20～30歳代と地域別の南部地域(谷山)と北部地域(吉野)では「通勤・通学や買物・通院などで本市との日

常生活圏になっている」の回答率が他に比べて低くなっている。

『松元町』

「松元町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」が71.8%で最も多く、次いで「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(32.4%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(30.5%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(25.6%)と続く。

性別の女性と、年齢別の50歳代では「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」の回答率が他に比べてやや高い。

また、年齢別の20歳代と70歳以上、地域別の西部地域(伊敷)と北部地域(吉野)では「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」の回答率が他に比べて高くなっている。

さらに北部地域(吉野)では「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」の回答も41.5%を占めて2番目に高い回答水準である。

『郡山町』

「郡山町」を選択した理由としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」が61.6%で最も多く、次いで「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(41.9%)、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(33.8%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(31.4%)と続く。

性別で見ると回答傾向に大きな違いはないが、女性の「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」の回答率が男性よりやや高い。

年齢別では、50歳以上では「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」点を4割以上があげており、他の年齢層と比べてやや高くなっている。

「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」については、20歳代以下と70歳以上の年齢層で4割前後の高率となっている。

地域別では回答傾向に大きな違いはない。

『三島村』

「三島村」を選択した理由としては、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」が39.6%で最も多く、次いで「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(26.0%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(18.9%)、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(14.4%)と続く。

三島村については、「その他」の回答率が24.4%と高く、それ以外の選択肢の回答率が全体的に低い。

性別で見ると、男性では「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」の回答率が女性より高く、女性では「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」と「水資源問題

や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」の回答率が男性より高い。

年齢別では、30歳から60歳代の年齢層で「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」点が高い比率を占めており、また、70歳以上では「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」の回答率が最も高くなっている。

地域別では、西部地域（伊敷）で「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」の回答率が低く、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」の回答率が最も高い点が他の地域と異なる。また、北部地域（吉野）では「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」の回答率が特に高く、半分近い48.6%を占める。

『十島村』

「十島村」を選択した理由としては、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」が39.5%で最も多く、次いで「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」（25.8%）、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」（19.5%）、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」（14.0%）と続く。

十島村については、「その他」の回答率が24.7%と高く、それ以外の選択肢の回答率も全体的に低い。

性別でみると、男性では「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」の回答率が女性より高く、女性では「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」と「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」の回答率が男性より高い。

年齢別では、30歳から60歳代の年齢層で「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」点が高い比率を占めており、また、70歳以上では「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」の回答率が最も高くなっている。

地域別では、西部地域（伊敷）で「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」の回答率が低く、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」の回答率が最も高い点が他の地域と異なる。また、北部地域（吉野）では「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」の回答率が他の地域より高い。

十島村については、回答傾向は三島村とほとんど一致している。

吉田町を選択した理由

		サンプル数	か地理的 合併位置 が望ましい 歴史 的経緯	圏に な つ て い る	な ど で 本 市 と の 日 常 生 活	通 勤 ・ 通 学 や 買 物 ・ 通 院	課 題 に 適 切 に 取 組 み を す べ き	ど と 水 質 問 題 や 交 通 問 題	水 源 問 題 や 交 通 問 題	ち 豊 づ く な ら ば 可 能 に な る	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体		1346	549 40.8	935 69.5	370 27.5	326 24.2	4 0.3	0 0.0	65 4.8	55 4.1				
性別	男 性	696	285 40.9	483 69.4	204 29.3	163 23.4	3 0.4	0 0.0	35 5.0	31 4.5				
	女 性	647	262 40.5	451 69.7	165 25.5	163 25.2	1 0.2	0 0.0	29 4.5	24 3.7				
	無 回 答	3	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0				
年齢別	19歳以下	19	10 52.6	12 63.2	5 26.3	6 31.6	0 0.0	0 0.0	1 5.3	0 0.0				
	20～29歳	111	47 42.3	78 70.3	31 27.9	18 16.2	0 0.0	0 0.0	5 4.5	2 1.8				
	30～39歳	148	50 33.8	104 70.3	27 18.2	28 18.9	0 0.0	0 0.0	5 3.4	7 4.7				
	40～49歳	225	80 35.6	175 77.8	58 25.8	46 20.4	0 0.0	0 0.0	8 3.6	4 1.8				
	50～59歳	280	110 39.3	191 68.2	79 28.2	67 23.9	0 0.0	0 0.0	16 5.7	13 4.6				
	60～69歳	294	113 38.4	196 66.7	84 28.6	81 27.6	2 0.7	0 0.0	14 4.8	17 5.8				
	70歳以上	268	139 51.9	178 66.4	86 32.1	80 29.9	2 0.7	0 0.0	16 6.0	12 4.5				
	無 回 答	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
地域別	中央地域	715	283 39.6	509 71.2	190 26.6	171 23.9	3 0.4	0 0.0	31 4.3	27 3.8				
	南部地域（谷山）	287	116 40.4	189 65.9	77 26.8	75 26.1	0 0.0	0 0.0	13 4.5	16 5.6				
	西部地域（伊敷）	177	70 39.5	121 68.4	54 30.5	42 23.7	1 0.6	0 0.0	12 6.8	5 2.8				
	北部地域（吉野）	158	75 47.5	110 69.6	47 29.7	36 22.8	0 0.0	0 0.0	7 4.4	6 3.8				
	東桜島地域	3	3 100.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
	無 回 答	6	2 33.3	3 50.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7				
職業別	農林水産業の自営	6	1 16.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7				
	商工業・サービス業の自営	99	44 44.4	61 61.6	28 28.3	19 19.2	1 1.0	0 0.0	5 5.1	8 8.1				
	技術的・専門的職業	92	40 43.5	69 75.0	31 33.7	20 21.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 4.3				
	会社員・団体職員	264	84 31.8	185 70.1	61 23.1	64 24.2	0 0.0	0 0.0	11 4.2	9 3.4				
	会社・団体等の役員	58	27 46.6	37 63.8	19 32.8	15 25.9	0 0.0	0 0.0	5 8.6	1 1.7				
	公務員	83	34 41.0	64 77.1	25 30.1	25 30.1	0 0.0	0 0.0	2 2.4	2 2.4				
	学生	39	17 43.6	28 71.8	12 30.8	6 15.4	0 0.0	0 0.0	2 5.1	0 0.0				
	専業主婦	253	111 43.9	175 69.2	64 25.3	58 22.9	0 0.0	0 0.0	6 2.4	8 3.2				
	無職	321	143 44.5	227 70.7	98 30.5	83 25.9	2 0.6	0 0.0	21 6.5	15 4.7				
	その他	121	42 34.7	81 66.9	27 22.3	31 25.6	1 0.8	0 0.0	10 8.3	7 5.8				
	無 回 答	10	6 60.0	6 60.0	3 30.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0				

桜島町を選択した理由

		サ ン プ ル 数	緯 地 理 的 位 置 が 望 ま し い	圏 な ど で 本 市 と の 日 常 生 活	通 勤 ・ 通 学 や 買 物 ・ 通 院	課 題 に 対 応 す べ き	ど も に 取 組 む 可 能 な	水 質 問 題 や 交 通 問 題	ち 豊 づ か な ら ず 自 然 を 活 用 し た ま	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答	
全 体		1360	636 46.8	810 59.6	287 21.1	470 34.6	1	0.1	1	89	6.5	51	3.8	
性別	男 性	699	335 47.9	412 58.9	155 22.2	239 34.2	0	0.0	1	49	7.0	29	4.1	
	女 性	657	300 45.7	396 60.3	132 20.1	229 34.9	1	0.2	0	39	5.9	22	3.3	
	無 回 答	4	1 25.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	0	0.0	0	0	1	25.0	0.0	
年齢別	19歳以下	16	7 43.8	8 50.0	4 25.0	7 43.8	0	0.0	0	0	0	0	1	6.3
	20～29歳	118	60 50.8	61 51.7	25 21.2	37 31.4	0	0.0	0	9	7.6	2	1.7	
	30～39歳	136	57 41.9	76 55.9	20 14.7	40 29.4	0	0.0	0	8	5.9	7	5.1	
	40～49歳	220	101 45.9	139 63.2	48 21.8	62 28.2	1	0.5	0	12	5.5	4	1.8	
	50～59歳	278	114 41.0	164 59.0	54 19.4	95 34.2	0	0.0	1	22	7.9	12	4.3	
	60～69歳	306	128 41.8	197 64.4	65 21.2	119 38.9	0	0.0	0	20	6.5	10	3.3	
	70歳以上	285	169 59.3	165 57.9	70 24.6	110 38.6	0	0.0	0	18	6.3	15	5.3	
	無 回 答	1	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0
地域別	中央地域	740	354 47.8	448 60.5	153 20.7	248 33.5	1	0.1	0	46	6.2	22	3.0	
	南部地域（谷山）	321	141 43.9	176 54.8	68 21.2	113 35.2	0	0.0	1	21	6.5	17	5.3	
	西部地域（伊敷）	162	74 45.7	100 61.7	38 23.5	57 35.2	0	0.0	0	12	7.4	5	3.1	
	北部地域（吉野）	126	61 48.4	79 62.7	26 20.6	49 38.9	0	0.0	0	8	6.3	5	4.0	
	東桜島地域	4	4 100.0	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0	0.0	0	0	0	0	0	
	無 回 答	7	2 28.6	3 42.9	1 14.3	1 14.3	0	0.0	0	2	28.6	2	28.6	
職業別	農林水産業の自営	5	1 20.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0	0.0	0	2	40.0	1	20.0	
	商工業・サービス業の自営	105	50 47.6	56 53.3	18 17.1	41 39.0	0	0.0	0	10	9.5	3	2.9	
	技術的・専門的職業	104	46 44.2	61 58.7	20 19.2	35 33.7	1	1.0	1	4	3.8	6	5.8	
	会社員・団体職員	244	107 43.9	140 57.4	48 19.7	71 29.1	0	0.0	0	17	7.0	7	2.9	
	会社・団体等の役員	58	27 46.6	31 53.4	14 24.1	21 36.2	0	0.0	0	5	8.6	1	1.7	
	公務員	84	43 51.2	58 69.0	19 22.6	33 39.3	0	0.0	0	2	2.4	2	2.4	
	学生	36	19 52.8	19 52.8	9 25.0	10 27.8	0	0.0	0	2	5.6	1	2.8	
	専業主婦	265	123 46.4	168 63.4	55 20.8	86 32.5	0	0.0	0	11	4.2	8	3.0	
	無職	330	172 52.1	197 59.7	83 25.2	125 37.9	0	0.0	0	20	6.1	16	4.8	
	その他	119	44 37.0	74 62.2	19 16.0	42 35.3	0	0.0	0	14	11.8	6	5.0	
	無 回 答	10	4 40.0	5 50.0	2 20.0	4 40.0	0	0.0	0	2	20.0	0	0.0	

喜入町を選択した理由

		サ ン プ ル 数	地 理 的 的 位 置 や 歴 史 的 経 緯	圏 な ど で 本 市 と の 日 常 生 活	通 勤 ・ 通 学 や 買 物 ・ 通 院	課 題 に 対 し た 取 組 み の 可 能 性	水 道 ・ 環 境 問 題 や 交 通 問 題	豊 か な 自 然 を 活 用 し た ま	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体		693	218 31.5	433 62.5	245 35.4	187 27.0	2 0.3	2 0.3	46 6.6	23 3.3		
性別	男 性	372	121 32.5	225 60.5	139 37.4	92 24.7	1 0.3	0 0.0	28 7.5	12 3.2		
	女 性	319	97 30.4	208 65.2	105 32.9	95 29.8	1 0.3	2 0.6	17 5.3	11 3.4		
	無 回 答	2	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0		
年齢別	19歳以下	9	1 11.1	7 77.8	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0		
	20～29歳	70	27 38.6	41 58.6	26 37.1	9 12.9	2 2.9	1 1.4	2 2.9	1 1.4		
	30～39歳	65	22 33.8	37 56.9	20 30.8	16 24.6	0 0.0	0 0.0	3 4.6	2 3.1		
	40～49歳	116	34 29.3	77 66.4	42 36.2	26 22.4	0 0.0	0 0.0	9 7.8	2 1.7		
	50～59歳	127	34 26.8	79 62.2	41 32.3	37 29.1	0 0.0	1 0.8	13 10.2	3 2.4		
	60～69歳	150	46 30.7	93 62.0	56 37.3	48 32.0	0 0.0	0 0.0	9 6.0	6 4.0		
	70歳以上	155	54 34.8	98 63.2	59 38.1	50 32.3	0 0.0	0 0.0	9 5.8	9 5.8		
	無 回 答	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
地域別	中央地域	355	116 32.7	234 65.9	128 36.1	91 25.6	1 0.3	1 0.3	20 5.6	10 2.8		
	南部地域（谷山）	212	58 27.4	119 56.1	77 36.3	65 30.7	0 0.0	0 0.0	16 7.5	8 3.8		
	西部地域（伊敷）	63	22 34.9	45 71.4	21 33.3	14 22.2	0 0.0	1 1.6	5 7.9	0 0.0		
	北部地域（吉野）	56	20 35.7	33 58.9	19 33.9	16 28.6	0 0.0	0 0.0	3 5.4	4 7.1		
	東桜島地域	1	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	無 回 答	6	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	2 33.3	1 16.7		
職業別	農林水産業の自営	2	0 0.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	商工業・サービス業の自営	57	19 33.3	31 54.4	13 22.8	7 12.3	0 0.0	0 0.0	6 10.5	4 7.0		
	技術的・専門的職業	54	23 42.6	30 55.6	18 33.3	12 22.2	0 0.0	1 1.9	2 3.7	3 5.6		
	会社員・団体職員	132	28 21.2	75 56.8	50 37.9	33 25.0	1 0.8	0 0.0	8 6.1	2 1.5		
	会社・団体等の役員	26	8 30.8	17 65.4	11 42.3	8 30.8	0 0.0	0 0.0	3 11.5	0 0.0		
	公務員	30	10 33.3	18 60.0	9 30.0	12 40.0	0 0.0	0 0.0	2 6.7	0 0.0		
	学生	25	9 36.0	16 64.0	8 32.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0	2 8.0	0 0.0		
	専業主婦	114	37 32.5	81 71.1	42 36.8	34 29.8	0 0.0	1 0.9	6 5.3	5 4.4		
	無職	183	66 36.1	120 65.6	71 38.8	56 30.6	0 0.0	0 0.0	9 4.9	8 4.4		
	その他	64	16 25.0	40 62.5	21 32.8	20 31.3	0 0.0	0 0.0	7 10.9	1 1.6		
	無 回 答	6	2 33.3	3 50.0	1 16.7	3 50.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0		

松元町を選択した理由

		サ ン プ ル 数	か 地 理 的 的 併 合 が 望 ま し い 経 緯	園 な ど に な っ て い る	通 勤 ・ 通 学 や 買 物 ・ 生 活	課 題 に 対 し て の 取 組 み が 可 能 な か ら い な い	水 道 ・ 交 通 ・ 住 居 ・ 環 境 等 の 問 題 が あ る か ら い な い	豊 か な 自 然 を 活 用 し た ま い な い	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体		1199	389 32.4	861 71.8	366 30.5	307 25.6	2 0.2	1 0.1	65 5.4	53 4.4		
性別	男 性	632	206 32.6	445 70.4	205 32.4	146 23.1	2 0.3	1 0.2	36 5.7	29 4.6		
	女 性	564	183 32.4	414 73.4	160 28.4	161 28.5	0 0.0	0 0.0	28 5.0	24 4.3		
	無 回 答	3	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0		
年齢別	19歳以下	13	4 30.8	9 69.2	1 7.7	3 23.1	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0		
	20～29歳	99	39 39.4	65 65.7	28 28.3	18 18.2	2 2.0	0 0.0	6 6.1	2 2.0		
	30～39歳	132	38 28.8	102 77.3	28 21.2	18 13.6	0 0.0	0 0.0	5 3.8	8 6.1		
	40～49歳	206	51 24.8	158 76.7	53 25.7	47 22.8	0 0.0	0 0.0	11 5.3	7 3.4		
	50～59歳	261	78 29.9	191 73.2	88 33.7	79 30.3	0 0.0	1 0.4	15 5.7	11 4.2		
	60～69歳	249	84 33.7	173 69.5	79 31.7	65 26.1	0 0.0	0 0.0	16 6.4	15 6.0		
	70歳以上	238	95 39.9	162 68.1	89 37.4	77 32.4	0 0.0	0 0.0	11 4.6	10 4.2		
	無 回 答	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
地域別	中央地域	647	206 31.8	473 73.1	199 30.8	161 24.9	1 0.2	0 0.0	30 4.6	29 4.5		
	南部地域（谷山）	322	92 28.6	227 70.5	88 27.3	91 28.3	0 0.0	1 0.3	19 5.9	16 5.0		
	西部地域（伊敷）	139	53 38.1	98 70.5	43 30.9	30 21.6	0 0.0	0 0.0	11 7.9	3 2.2		
	北部地域（吉野）	82	36 43.9	58 70.7	34 41.5	23 28.0	0 0.0	0 0.0	3 3.7	4 4.9		
	東桜島地域	2	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	無 回 答	7	1 14.3	3 42.9	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	2 28.6	1 14.3		
職業別	農林水産業の自営	4	1 25.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0		
	商工業・サービス業の自営	101	34 33.7	67 66.3	27 26.7	20 19.8	0 0.0	0 0.0	9 8.9	6 5.9		
	技術的・専門的職業	98	34 34.7	72 73.5	31 31.6	17 17.3	0 0.0	1 1.0	2 2.0	6 6.1		
	会社員・団体職員	239	60 25.1	177 74.1	72 30.1	53 22.2	2 0.8	0 0.0	12 5.0	9 3.8		
	会社・団体等の役員	47	15 31.9	30 63.8	21 44.7	16 34.0	0 0.0	0 0.0	4 8.5	2 4.3		
	公務員	67	18 26.9	53 79.1	22 32.8	18 26.9	0 0.0	0 0.0	2 3.0	2 3.0		
	学生	31	11 35.5	22 71.0	10 32.3	3 9.7	0 0.0	0 0.0	2 6.5	0 0.0		
	専業主婦	222	81 36.5	166 74.8	61 27.5	60 27.0	0 0.0	0 0.0	9 4.1	11 5.0		
	無職	267	101 37.8	188 70.4	92 34.5	85 31.8	0 0.0	0 0.0	13 4.9	9 3.4		
	その他	113	29 25.7	79 69.9	27 23.9	30 26.5	0 0.0	0 0.0	9 8.0	8 7.1		
	無 回 答	10	5 50.0	5 50.0	1 10.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0		

郡山町を選択した理由

		サ ン プ ル 数	か ら 地 理 的 的 併 合 が 望 ま し い 経 緯	園 地 に な っ て い る 日 常 生 活	通 勤 ・ 通 学 や 買 物 ・ 通 院	課 題 に 対 し て 取 組 む 可 能 な 課 題	水 道 ・ 交 通 ・ 住 居 ・ 環 境 ・ 保 健 ・ 文 化 ・ レ ジ デ ン ス	豊 か な 自 然 を 活 用 し た ま	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答	
全 体		1036	350 33.8	638 61.6	434 41.9	325 31.4	3 0.3	3 0.3	57 5.5	50 4.8			
性別	男 性	555	195 35.1	345 62.2	240 43.2	164 29.5	2 0.4	1 0.2	33 5.9	26 4.7			
	女 性	478	155 32.4	292 61.1	192 40.2	161 33.7	1 0.2	2 0.4	23 4.8	24 5.0			
	無 回 答	3	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0			
年齢別	19歳以下	13	5 38.5	7 53.8	5 38.5	4 30.8	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0			
	20～29歳	88	34 38.6	53 60.2	27 30.7	24 27.3	2 2.3	0 0.0	5 5.7	2 2.3			
	30～39歳	100	27 27.0	62 62.0	27 27.0	26 26.0	0 0.0	0 0.0	4 4.0	8 8.0			
	40～49歳	162	40 24.7	110 67.9	62 38.3	47 29.0	1 0.6	2 1.2	9 5.6	3 1.9			
	50～59歳	219	72 32.9	140 63.9	96 43.8	78 35.6	0 0.0	1 0.5	11 5.0	11 5.0			
	60～69歳	231	76 32.9	133 57.6	107 46.3	72 31.2	0 0.0	0 0.0	13 5.6	15 6.5			
	70歳以上	222	96 43.2	132 59.5	110 49.5	74 33.3	0 0.0	0 0.0	14 6.3	11 5.0			
	無 回 答	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
地域別	中央地域	576	196 34.0	360 62.5	239 41.5	177 30.7	0 0.0	3 0.5	26 4.5	26 4.5			
	南部地域（谷山）	203	65 32.0	119 58.6	83 40.9	67 33.0	1 0.5	0 0.0	12 5.9	11 5.4			
	西部地域（伊敷）	163	56 34.4	102 62.6	72 44.2	50 30.7	0 0.0	0 0.0	13 8.0	7 4.3			
	北部地域（吉野）	86	31 36.0	53 61.6	37 43.0	30 34.9	1 1.2	0 0.0	4 4.7	5 5.8			
	東桜島地域	2	1 50.0	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	無 回 答	6	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	2 33.3	1 16.7			
職業別	農林水産業の自営	4	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0			
	商工業・サービス業の自営	81	26 32.1	43 53.1	33 40.7	20 24.7	0 0.0	1 1.2	6 7.4	8 9.9			
	技術的・専門的職業	74	26 35.1	46 62.2	28 37.8	21 28.4	0 0.0	0 0.0	1 1.4	3 4.1			
	会社員・団体職員	204	58 28.4	128 62.7	71 34.8	61 29.9	3 1.5	1 0.5	9 4.4	6 2.9			
	会社・団体等の役員	40	12 30.0	24 60.0	18 45.0	14 35.0	0 0.0	0 0.0	4 10.0	2 5.0			
	公務員	65	19 29.2	43 66.2	28 43.1	25 38.5	0 0.0	0 0.0	3 4.6	2 3.1			
	学生	31	14 45.2	18 58.1	14 45.2	7 22.6	0 0.0	0 0.0	2 6.5	0 0.0			
	専業主婦	181	66 36.5	115 63.5	79 43.6	53 29.3	0 0.0	1 0.6	7 3.9	11 6.1			
	無職	256	99 38.7	156 60.9	121 47.3	87 34.0	0 0.0	0 0.0	17 6.6	11 4.3			
	その他	92	26 28.3	59 64.1	38 41.3	34 37.0	0 0.0	0 0.0	5 5.4	7 7.6			
	無 回 答	8	4 50.0	5 62.5	2 25.0	3 37.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0			

三島村を選択した理由

		サ ン プ ル 数	地 理 的 的 位 置 や 歴 史 的 経 緯	通 勤 ・ 通 学 や 買 物 ・ 生 活	課 題 に 対 応 す べ き な	水 資 源 や 交 通 問 題 な	豊 か な 自 然 を 活 用 し た ま	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体		381	99 26.0	55 14.4	72 18.9	151 39.6	7 1.8	5 1.3	93 24.4	19 5.0	
性別	男 性	212	62 29.2	27 12.7	32 15.1	75 35.4	4 1.9	3 1.4	54 25.5	13 6.1	
	女 性	166	36 21.7	28 16.9	39 23.5	75 45.2	3 1.8	2 1.2	37 22.3	6 3.6	
	無 回 答	3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	
年 齢 別	19歳以下	5	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	
	20～29歳	28	6 21.4	4 14.3	6 21.4	8 28.6	1 3.6	0 0.0	10 35.7	1 3.6	
	30～39歳	35	6 17.1	5 14.3	7 20.0	15 42.9	0 0.0	0 0.0	8 22.9	3 8.6	
	40～49歳	74	17 23.0	10 13.5	12 16.2	31 41.9	1 1.4	1 1.4	16 21.6	3 4.1	
	50～59歳	78	21 26.9	8 10.3	6 7.7	37 47.4	3 3.8	1 1.3	21 26.9	4 5.1	
	60～69歳	70	18 25.7	12 17.1	18 25.7	31 44.3	2 2.9	1 1.4	14 20.0	3 4.3	
	70歳以上	91	31 34.1	16 17.6	20 22.0	29 31.9	0 0.0	2 2.2	22 24.2	5 5.5	
地 域 別	中央地域	220	56 25.5	37 16.8	47 21.4	90 40.9	4 1.8	3 1.4	52 23.6	7 3.2	
	南部地域（谷山）	80	18 22.5	8 10.0	12 15.0	32 40.0	0 0.0	1 1.3	17 21.3	9 11.3	
	西部地域（伊敷）	42	15 35.7	5 11.9	5 11.9	11 26.2	1 2.4	1 2.4	14 33.3	0 0.0	
	北部地域（吉野）	37	10 27.0	5 13.5	8 21.6	18 48.6	2 5.4	0 0.0	9 24.3	2 5.4	
	東桜島地域	0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	無 回 答	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	
職 業 別	農林水産業の自営	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	
	商工業・サービス業の自営	31	10 32.3	7 22.6	4 12.9	13 41.9	0 0.0	0 0.0	5 16.1	2 6.5	
	技術的・専門的職業	23	5 21.7	4 17.4	7 30.4	10 43.5	0 0.0	0 0.0	5 21.7	0 0.0	
	会社員・団体職員	59	13 22.0	5 8.5	8 13.6	23 39.0	3 5.1	1 1.7	20 33.9	3 5.1	
	会社・団体等の役員	19	6 31.6	2 10.5	3 15.8	7 36.8	0 0.0	0 0.0	6 31.6	1 5.3	
	公務員	39	10 25.6	6 15.4	4 10.3	21 53.8	0 0.0	0 0.0	5 12.8	3 7.7	
	学生	17	4 23.5	2 11.8	4 23.5	2 11.8	1 5.9	0 0.0	6 35.3	0 0.0	
	専業主婦	57	14 24.6	9 15.8	10 17.5	26 45.6	1 1.8	1 1.8	13 22.8	2 3.5	
	無職	103	28 27.2	15 14.6	23 22.3	35 34.0	2 1.9	2 1.9	26 25.2	6 5.8	
	その他	29	7 24.1	5 17.2	8 27.6	12 41.4	0 0.0	1 3.4	6 20.7	2 6.9	
	無 回 答	3	2 66.7	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

十島村を選択した理由

		サンプル数	地理的併合が望ましい経緯	圏になつていてる	通勤・通学や買物・生活	課題に適切な対応できる	水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき	ち豊かな自然を活用したま	特にな	わからない	その他	無回答
全 体		365	94 25.8	51 14.0	71 19.5	144 39.5	6 1.6	5 1.4	90 24.7	21 5.8		
性別	男 性	205	58 28.3	25 12.2	32 15.6	73 35.6	4 2.0	3 1.5	52 25.4	14 6.8		
	女 性	157	35 22.3	26 16.6	38 24.2	70 44.6	2 1.3	2 1.3	36 22.9	7 4.5		
	無 回 答	3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0		
年齢別	19歳以下	5	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0		
	20～29歳	29	6 20.7	4 13.8	6 20.7	9 31.0	1 3.4	0 0.0	10 34.5	1 3.4		
	30～39歳	34	6 17.6	5 14.7	7 20.6	14 41.2	0 0.0	0 0.0	8 23.5	3 8.8		
	40～49歳	68	16 23.5	9 13.2	10 14.7	26 38.2	1 1.5	1 1.5	16 23.5	5 7.4		
	50～59歳	71	20 28.2	7 9.9	6 8.5	34 47.9	2 2.8	1 1.4	20 28.2	2 2.8		
	60～69歳	70	16 22.9	11 15.7	20 28.6	32 45.7	2 2.9	1 1.4	14 20.0	4 5.7		
	70歳以上	88	30 34.1	15 17.0	19 21.6	29 33.0	0 0.0	2 2.3	20 22.7	6 6.8		
地域別	中央地域	211	52 24.6	35 16.6	44 20.9	87 41.2	4 1.9	3 1.4	51 24.2	9 4.3		
	南部地域（谷山）	75	18 24.0	7 9.3	12 16.0	29 38.7	0 0.0	1 1.3	17 22.7	8 10.7		
	西部地域（伊敷）	43	14 32.6	6 14.0	6 14.0	13 30.2	1 2.3	1 2.3	12 27.9	1 2.3		
	北部地域（吉野）	34	10 29.4	3 8.8	9 26.5	15 44.1	1 2.9	0 0.0	9 26.5	2 5.9		
	東桜島地域	0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	無 回 答	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0		
職業別	農林水産業の自営	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0		
	商工業・サービス業の自営	28	10 35.7	6 21.4	4 14.3	10 35.7	0 0.0	0 0.0	5 17.9	2 7.1		
	技術的・専門的職業	19	4 21.1	3 15.8	7 36.8	8 42.1	0 0.0	0 0.0	4 21.1	0 0.0		
	会社員・団体職員	57	13 22.8	5 8.8	7 12.3	22 38.6	2 3.5	1 1.8	20 35.1	3 5.3		
	会社・団体等の役員	19	5 26.3	2 10.5	3 15.8	7 36.8	0 0.0	0 0.0	6 31.6	2 10.5		
	公務員	37	10 27.0	6 16.2	4 10.8	19 51.4	0 0.0	0 0.0	5 13.5	3 8.1		
	学生	17	4 23.5	2 11.8	4 23.5	2 11.8	1 5.9	0 0.0	6 35.3	0 0.0		
	専業主婦	58	14 24.1	10 17.2	10 17.2	28 48.3	1 1.7	1 1.7	13 22.4	2 3.4		
	無職	98	25 25.5	13 13.3	23 23.5	34 34.7	2 2.0	2 2.0	24 24.5	7 7.1		
	その他	28	7 25.0	4 14.3	8 28.6	12 42.9	0 0.0	1 3.6	6 21.4	2 7.1		
	無 回 答	3	2 66.7	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		

問11 ア 上記の7町村以外で、本市と合併すべきであるとする市町村があれば、その市町村名を記入してください。(いくつでも結構です)

鹿児島市周辺の7町村以外に合併すべきとする市町村として、下表の6市16町があがっており、中でも「伊集院町」と「始良町」、「吹上町」の3町の回答が比較的多くなっている。

		サンプル数	伊集院町	始良町	吹上町	蒲生町	金峰町	川辺町	東市来町	垂水市	知覧町	日吉町	加治木町
全 体		1790	145 8.1	73 4.1	37 2.1	10 0.6	9 0.5	8 0.4	8 0.4	6 0.3	6 0.3	6 0.3	6 0.3
性別	男 性	890	82 9.2	43 4.8	24 2.7	7 0.8	6 0.7	6 0.7	3 0.3	6 0.7	3 0.3	4 0.4	4 0.4
	女 性	895	63 7.0	30 3.4	13 1.5	3 0.3	3 0.3	2 0.2	5 0.6	0 0.0	3 0.3	2 0.2	2 0.2
	無 回 答	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢別	19歳以下	26	1 3.8	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20～29歳	180	19 10.6	8 4.4	5 2.8	0 0.0	1 0.6	1 0.6	1 0.6	0 0.0	1 0.6	1 0.6	0 0.0
	30～39歳	200	24 12.0	7 3.5	4 2.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0	1 0.5	2 1.0	0 0.0	2 1.0	0 0.0
	40～49歳	299	27 9.0	10 3.3	10 3.3	2 0.7	2 0.7	1 0.3	2 0.7	1 0.3	1 0.3	1 0.3	0 0.0
	50～59歳	368	34 9.2	18 4.9	6 1.6	1 0.3	2 0.5	1 0.3	3 0.8	1 0.3	1 0.3	1 0.3	2 0.5
	60～69歳	369	22 6.0	17 4.6	7 1.9	7 1.9	1 0.3	3 0.8	0 0.0	2 0.5	2 0.5	0 0.0	3 0.8
	70歳以上	346	18 5.2	11 3.2	5 1.4	0 0.0	2 0.6	2 0.6	1 0.3	0 0.0	1 0.3	1 0.3	1 0.3
	無 回 答	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
地域別	中央地域	928	84 9.1	46 5.0	19 2.0	6 0.6	6 0.6	5 0.5	6 0.6	4 0.4	4 0.4	4 0.4	4 0.4
	南部地域(谷山)	444	29 6.5	7 1.6	16 3.6	1 0.2	3 0.7	2 0.5	1 0.2	0 0.0	2 0.5	0 0.0	1 0.2
	西部地域(伊敷)	222	21 9.5	10 4.5	2 0.9	1 0.5	0 0.0	1 0.5	1 0.5	1 0.5	0 0.0	2 0.9	0 0.0
	北部地域(吉野)	179	11 6.1	10 5.6	0 0.0	2 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.6	0 0.0	0 0.0	1 0.6
	東桜島地域	4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無 回 答	13	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
職業別	農林水産業の自営	6	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	商工業・サービス業の自営	140	7 5.0	8 5.7	4 2.9	0 0.0	2 1.4	0 0.0	1 0.7	1 0.7	1 0.7	0 0.0	0 0.0
	技術的・専門的職業	141	13 9.2	5 3.5	5 3.5	1 0.7	0 0.0	0 0.0	2 1.4	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0
	会社員・団体職員	343	39 11.4	19 5.5	6 1.7	1 0.3	2 0.6	2 0.6	1 0.3	2 0.6	1 0.3	1 0.3	3 0.9
	会社・団体等の役員	65	6 9.2	3 4.6	2 3.1	2 3.1	0 0.0	2 3.1	0 0.0	0 0.0	2 3.1	0 0.0	0 0.0
	公務員	104	11 10.6	2 1.9	3 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0	1 1.9	0 0.0
	学生	58	2 3.4	2 3.4	1 1.7	0 0.0	1 1.7	1 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	専業主婦	348	25 7.2	14 4.0	5 1.4	2 0.6	1 0.3	1 0.3	1 0.3	0 0.0	0 0.0	1 0.3	0 0.0
	無職	402	29 7.2	13 3.2	6 1.5	2 0.5	1 0.2	1 0.2	1 0.2	3 0.7	0 0.0	1 0.2	3 0.7
	その他	171	10 5.8	7 4.1	4 2.3	1 0.6	2 1.2	1 0.6	1 0.6	0 0.0	0 0.0	1 0.6	0 0.0
	無 回 答	12	2 16.7	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0						

		市来町	屋久町	串木野市	指宿市	加世田市	国分市	西之表市	溝辺町	中種子町	南種子町	上屋久町	無回答
全 体		3 0.2	2 0.1	1 0.1	1552 86.7								
性別	男 性	2 0.2	1 0.1	1 0.1	1 0.1	0 0.0	0 0.0	1 0.1	0 0.0	1 0.1	1 0.1	1 0.1	753 84.6
	女 性	1 0.1	1 0.1	0 0.0	0 0.0	1 0.1	1 0.1	0 0.0	1 0.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	794 88.7
	無 回 答	0 0.0	5 100.0										
年齢別	19歳以下	0 0.0	23 88.5										
	20～29歳	0 0.0	151 83.9										
	30～39歳	1 0.5	0 0.0	165 82.5									
	40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	258 86.3
	50～59歳	2 0.5	2 0.5	1 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	0 0.0	1 0.3	1 0.3	1 0.3	315 85.6
	60～69歳	0 0.0	325 88.1										
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	0 0.0	1 0.3	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	313 90.5
	無 回 答	0 0.0	2 100.0										
地域別	中央地域	1 0.1	2 0.2	1 0.1	790 85.1								
	南部地域（谷山）	0 0.0	393 88.5										
	西部地域（伊敷）	1 0.5	0 0.0	194 87.4									
	北部地域（吉野）	1 0.6	0 0.0	158 88.3									
	東桜島地域	0 0.0	4 100.0										
	無 回 答	0 0.0	13 100.0										
職業別	農林水産業の自営	0 0.0	5 83.3										
	商工業・サービス業の自営	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.7	0 0.0	1 0.7	1 0.7	1 0.7	121 86.4
	技術的・専門的職業	1 0.7	0 0.0	0 0.0	1 0.7	0 0.0	117 83.0						
	会社員・団体職員	0 0.0	1 0.3	0 0.0	279 81.3								
	会社・団体等の役員	0 0.0	56 86.2										
	公務員	1 1.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	91 87.5							
	学生	0 0.0	51 87.9										
	専業主婦	1 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	306 87.9
	無職	0 0.0	357 88.8										
	その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	153 89.5
	無 回 答	0 0.0	10 83.3										

**イ また、記入された市町村と合併すべきであるとする理由について、
問10イの番号を記入してください。(いくつでも結構です)**

全体としては、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」が64.3%で最も多く、次いで「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(41.5%)、「水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる」(31.7%)、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」(29.0%)と続く。

合併すべきとする市町村としては、まず第一に、普段、同じ生活圏としての一体感を感じている市町村をあげ、次に、地理的、歴史的なつながりを重視していることが推察できる。

回答の多かった3町についてその理由をみると、最も回答の多かった「伊集院町」は、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」が75.2%、「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」も53.1%で、2項目とも高い比率を占めている。

伊集院町に次いで回答の多かった「始良町」を選んだ理由では、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」が72.6%の高率となっている。

「吹上町」については、「通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている」(43.2%)と「地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい」(40.5%)の回答はいずれも4割程度であるが、「豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる」が56.8%を占めて最も多く、吹上町の豊かな自然環境や自然資源が合併を考える上での最大の理由となっている。

7町村以外の市町村で、合併すべきであるとする理由

	サンプル数	地理的合併が望ましい経緯	圏などになっていく日常生活圏	通勤・通学や買物・通院	課題に適切な対応できるべきな	水資源問題や交通問題など	ど広域的な取組を通すべきな	水資源問題や交通問題など	ちづかな自然を活用したま	特にな	わからない	その他	無回答
全 体	328	136 41.5	211 64.3	104 31.7	95 29.0	0 0.0	0 0.0	23 7.0	11 3.4				
伊集院町	145	77 53.1	109 75.2	49 33.8	36 24.8	0 0.0	0 0.0	10 6.9	3 2.1				
始良町	73	19 26.0	53 72.6	15 20.5	9 12.3	0 0.0	0 0.0	8 11.0	3 4.1				
吹上町	37	15 40.5	16 43.2	10 27.0	21 56.8	0 0.0	0 0.0	1 2.7	1 2.7				
蒲生町	10	4 40.0	7 70.0	3 30.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0				
金峰町	9	2 22.2	0 0.0	5 55.6	5 55.6	0 0.0	0 0.0	1 11.1	1 11.1				
川辺町	8	2 25.0	0 0.0	4 50.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5				
東市来町	8	4 50.0	5 62.5	3 37.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
垂水市	6	1 16.7	3 50.0	3 50.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
知覧町	6	5 83.3	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0				
日吉町	6	1 16.7	2 33.3	4 66.7	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
加治木町	6	2 33.3	5 83.3	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7				
市来町	3	2 66.7	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
屋久町	2	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0				
串木野市	1	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
指宿市	1	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
加世田市	1	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
国分市	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
西之表市	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
溝辺町	1	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
中種子町	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
南種子町	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
上屋久町	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				

その他、市町村合併について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。(意見抜粋)

合併に賛成の意見

市町村合併は進めるべきと思う。これからの少子高齢化に向かい、小さな町村は事務処理等についても今の通信の進化について行けない。

交通機関、メディアの発達した今日にあっては、市周辺の町村と合併しても何ら問題ないものと思料される。

鹿児島県の発展には鹿児島市の役割が大きい。鹿児島市はもっと大きくなり、鹿児島の発展の推進力となって欲しい。

都市圏だけの活性化が進み、小さい地方の取組や財政状況等を考えると、市町村を統合し、多くの住民で地域の活性化に取り組んだ方がいい。

今後の鹿児島市のビジョンを考えた場合、環境問題、水資源問題が最重要課題と考えられる。地理的な条件に恵まれた近隣町との合併により、発展的なまちづくりができる。鹿児島市内への人口集中の拡散、交通問題の解決、さらに企業の分散化を図れる。

合併に反対の意見

現在でも交通体制の整備及び行政サービスが不十分であるのに、地域が拡大することによって、これが一層悪くなるおそれが考えられる。

これ以上の一極集中化は県全体のバランスを失い、市郊外の整備が益々遅れ、サービスも行き届かなくなる。

鹿児島市のような大きな都市が合併を進めるより、周辺の町村が手を組み協力したほうが鹿児島県全体の発展につながると思う。

隣接する町(住民)の希望があれば合併検討の必要はあるが、鹿児島市の方から求める必要はない。

その他(ご意見・ご要望など)

お互いのメリット、デメリットを明確にした上で、本当に合併が必要なのか検討してほしい。

合併、被合併市町村の住民間における合併への賛否の意向を十分に打診し、合併の諸条件や合併後の諸条件の変化に関する認識が十分に行き渡るよう、情報説明の徹底をして欲しい。

合併によって小、中、高の校区制が大々的に広がるか、変わる可能性があります、細心の注意をはらってほしい。

市町村合併にはいろいろなリスクや課題が伴うと思うが、合併する市民や町民の意見を取り入れて、合併してよかったと思えるような都市を作って欲しい。

調査資料（アンケート票）

市町村合併市民意識調査

～考えてみよう 市町村合併～

(平成14年4月実施)

～ ご記入にあたって ～

ご回答いただいた内容は統計的に処理し、個々の内容を公表するものではありませんので、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ありません。どうぞお考えのままにお答えください。

調査の対象者は、4月8日現在、鹿児島市にお住まいの18歳以上の方の中から10,000人を無作為に選ばせていただきましたが、転居等でご本人がいらっしゃらない場合には、調査票を返却して下さるようお願いいたします。

ご回答については、特別に指定がない場合は、それぞれの質問項目ごとに該当する番号に 印をお付けください。また、お答えが「その他」に該当する場合は、その番号に 印をお付けいただくとともに、〔 〕内に具体的にご記入ください。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒にて4月30日(火)までにご投函ください。(切手不要)

調査に関するお問い合わせ先

鹿児島市役所 企画部企画調整課 TEL 216-1107(直通)
224-1111(代表)

市町村合併についてお伺いします。

問6 国や県が市町村合併を進めていることについてご存じですか。該当する番号に 印をお付けください。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. よく知っている | 2. ある程度知っている |
| 3. ほとんど知らない | 4. 全く知らない |

問7 本市は周辺の市町村と合併する必要があると思いますか。該当する番号に 印をお付けください。

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1. 合併する必要がある | 問8, 問10・11へ |
| 2. どちらかといえば合併する必要がある | 問8, 問10・11へ |
| 3. どちらかといえば合併する必要はない | 問9へ |
| 4. 合併する必要はない | 問9へ |
| 5. どちらともいえない | |
| 6. わからない | |

問7で1又は2と答えた方

問8 合併する必要があると回答された理由について、該当する番号に 印をお付けください。(いくつでも結構です)

1. 人口・面積を拡大し、鹿児島市の発展の可能性をさらに高める必要がある
2. 県都として周辺自治体の活性化に寄与すべきである
3. 地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい
4. 通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている
5. 水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる
6. 豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる
7. 特にない
8. わからない
9. その他〔具体的に： 〕

問7で3又は4と答えた方

問9 合併する必要はないと回答された理由について、該当する番号に 印をお付けください。(いくつでも結構です)

1. 鹿児島市は現在の人口・面積が適当である(これ以上増やす必要はない)
2. 新たな行財政需要が増え、財政負担が大きくなる
3. 行政区域が広くなり、行政サービスが行き届きにくくなる
4. 既存の市域の整備が遅れる
5. 鹿児島市への一極集中が進み、県全体の均衡ある発展の妨げとなる
6. 合併しなくても広域的な連携・協力による広域行政で十分である
7. 特にない
8. わからない
9. その他〔具体的に： 〕

問7で1又は2と答えた方

問10 ア 下記の7町村のうち、本市と合併すべきであるとする町村に 印をお付けください。（いくつでも結構です）

イ また、印を付けられた町村と合併すべきであるとする理由について、該当する番号を記入してください。（いくつでも結構です）

- 1. 地理的位置や歴史的経緯から合併が望ましい
- 2. 通勤・通学や買物・通院などで本市との日常生活圏になっている
- 3. 水資源問題や交通問題など広域的な取組をすべき課題に適切に対応できる
- 4. 豊かな自然を活用したまちづくりが可能になる
- 5. 特にない
- 6. わからない
- 7. その他〔具体的に記入してください〕

	吉田町	桜島町	喜入町	松元町	郡山町	三島村	十島村
ア							
イ理由							

問11 ア 上記の7町村以外で、本市と合併すべきであるとする市町村があれば、その市町村名を記入してください。（いくつでも結構です）

イ また、記入された市町村と合併すべきであるとする理由について、問10イの番号を記入してください。（いくつでも結構です）

ア市町村名					
イ理由					

その他、市町村合併についてご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力いただき誠にありがとうございました。